

貝塚市埋蔵文化財調査報告第8集

貝塚市遺跡群発掘調査概要VI

1984・3

貝塚市教育委員会

はじめに

わたくしたちにとって郷土「貝塚」はその名のごとく古い歴史と伝統をもつ地域であり、泉州地域の中にあっても古代より重要な発展を遂げてきた所であります。しかし、それら古い歴史を誇る郷土も近年の都市化の渦の中に日々変貌してきているのも事実であり、その代償として古くより残る各種文化財の荒廃が急速に進行してきております。開発の影に隠れた先人の遺産を失うことは非常な損失であると言わねばなりません。

このような状況下におきまして、本報告が先人の残した長い歴史を文化財という名のもとに現在に生きるわたくしたちに少しでもお役に立つことができれば幸かと存じます。

なお、本報告の作成ならびに発掘調査につきましては関係各位より多大の協力を得ましたことを末筆ではありますが、ここに記して感謝の意を表します。

1984年3月

貝塚市教育委員会

教育長 岡 根 和 雄

例 言

1. 本書は貝塚市教育委員会が昭和58年度に実施した貝塚市域における発掘調査結果のうち澱池遺跡発掘調査にかかる調査結果報告である。
2. 発掘調査は貝塚市教育委員会社会教育課、西岡巖が担当し、現地調査および本書の作成に当っては下記の諸氏の参加を得て実施したものである。
嘉積由彦、佐々木義明、西分平和、吉川安浩、田中明美、北風泰子、田中和枝、鶴田早苗、藤原篤子。
3. 本書の編集・執筆については西岡が主に行い、遺構・遺物のトレースは藤原・鶴田。遺物写真撮影は嘉積の協力によるものである。

目 次

はじめに

例 言

目 次

澱池遺跡の調査

第一節 位置と環境	1
第二節 検出遺構	3
1. 検出遺構の概要	3
2. 掘立柱建物 (S B)	5
3. 井 戸 (S E)	6
4. 溝 (S D)	9
5. 土 壇 (S K)	11
第三節 出土遺物	13
1. 掘立柱建物・ピット出土遺物	13
2. 井戸出土遺物	17
3. 溝出土遺物	27
4. 土壇出土遺物	27
5. その他の出土遺物	29
第四節 ま と め	30

図版目次

- 図版一 遺構 1. A区全景, 2. 同上
図版二 遺構 1. A区掘立柱建物1, 2. 同上
図版三 遺構 1. A区掘立柱建物2, 3, 2. A区溝1
図版四 遺構 1. A区掘立柱建物1柱穴掘り方内遺物出土状況
2. A区掘立柱建物3柱穴掘り方内遺物出土状況
図版五 遺構 1. A区井戸1, 2. 同上部分
図版六 遺構 1. A区土拵5遺物出土状況, 2. 同上完掘状況
図版七 遺構 1. C区全景, 2. B区全景
図版八 遺構 1. C区土拵10遺物出土状況, 2. 同上部分
図版九 遺構 1. C区溝7上面遺物出土状況, 2. C区井戸2
図版一〇遺構 1. C区井戸3内土層断面, 2. 同上完掘状況
図版一一遺構 1. D区全景, 2. 同上
図版一二遺構 1. D区ピット群, 2. D区井戸4
図版一三遺構 1. D区井戸5, 2. 同上
図版一四 掘立柱建物・ピット出土遺物
図版一五 A区井戸1出土遺物
図版一六 C区井戸2出土遺物
図版一七 C区井戸2出土遺物
図版一八 C区井戸2出土遺物
図版一九 C区井戸3出土遺物
図版二〇 C区井戸3出土遺物
図版二一 C区井戸3出土遺物
図版二二 D区井戸5出土遺物
図版二三 D区井戸5出土遺物
図版二四 D区井戸5出土遺物
図版二五 D区井戸5出土遺物
図版二六 D区井戸5出土遺物
図版二七 D区井戸5出土遺物
図版二八 D区井戸5出土遺物
図版二九 A区溝1出土遺物
図版三〇 C区溝7出土遺物
図版三一 C区溝7出土遺物
図版三二 C区土拵10出土遺物

図版三三 その他の出土遺物

挿図目次

- 第1図 貝塚市遺跡分布図
第2図 調査位置図
第3図 調査区域図
第4図 A区SE-1平面・断面実測図
第5図 遺構実測図
第6図 C区SE-3平面・断面実測図
第7図 A区SK-5平面実測図
第8図 SB-1, 3, ピット出土遺物実測図
第9図 A区SE-1出土遺物実測図
第10図 C区SE-2出土遺物実測図
第11図 C区SE-2出土遺物実測図
第12図 C区SE-3出土遺物実測図
第13図 C区SE-3出土遺物実測図
第14図 C区SE-3出土遺物実測図
第15図 D区SE-5出土遺物実測図
第16図 D区SE-5出土遺物実測図
第17図 D区SE-5出土遺物実測図
第18図 D区SE-5出土遺物実測図
第19図 A区SD-1出土遺物実測図
第20図 C区SD-7出土遺物実測図
第21図 C区SD-7出土遺物実測図
第22図 A区SK-5出土遺物実測図
第23図 C区SK-10出土遺物実測図
第24図 その他の出土遺物実測図

澱池遺跡の調査

第一節 位置と環境

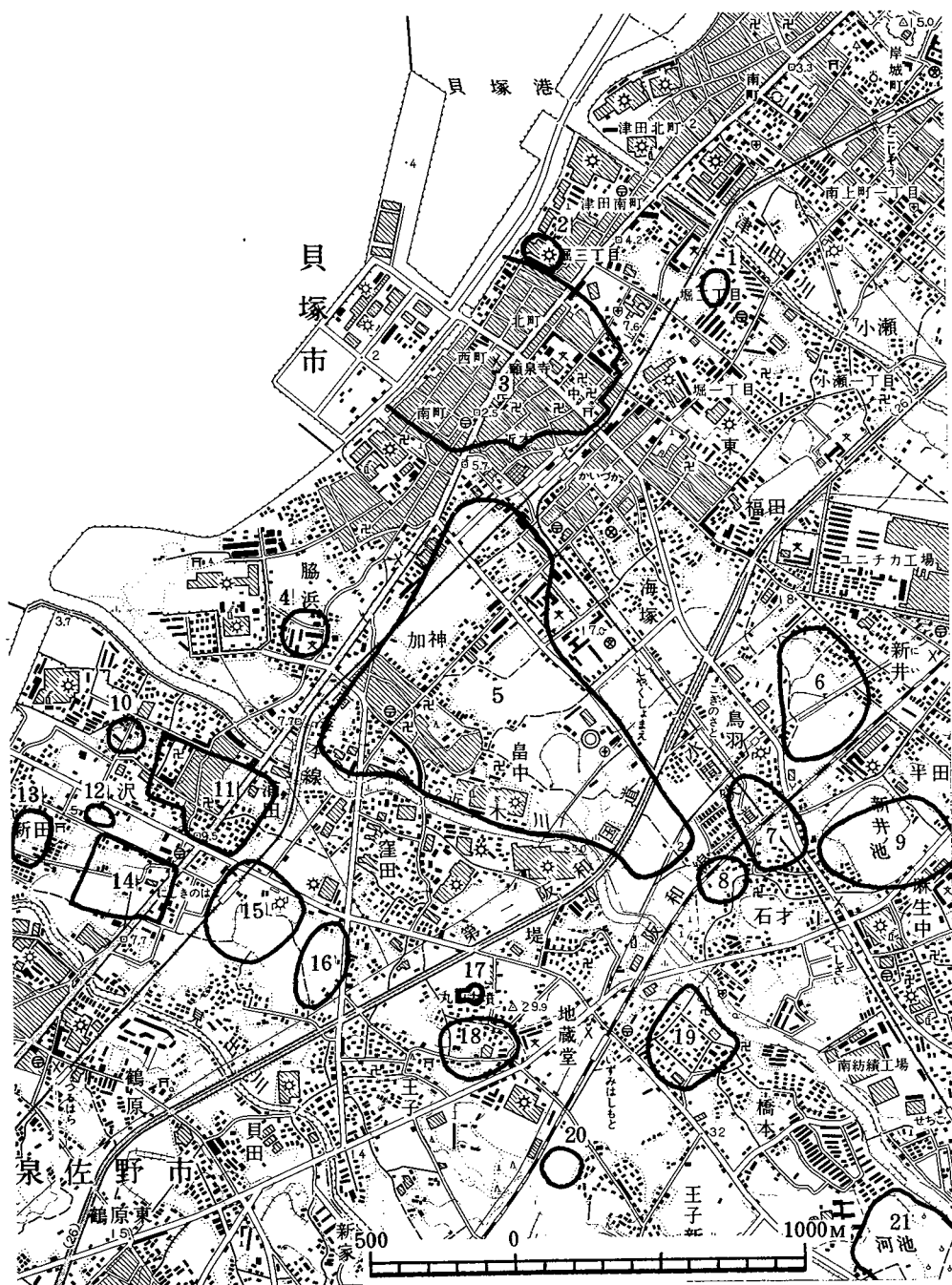
澱池遺跡は南海本線二色ノ浜駅のすぐ南側に位置する澱池を中心として広がる遺跡で、貝塚市の中央を流れる近木川と西方の泉佐野市と界する見出川とのほぼ中間点に位置する。海岸部からは約1 kmほど内陸部にはいった、海拔約10～13 mの平坦地域である。遺跡の範囲は南北約300 m、東西約300 mで澱池を包含し、周辺の耕作地域および南海本線二色ノ浜駅をも含んだ形で広がっている（第1図参照）。

遺跡の種類としてはかつてより発掘調査等による遺構の確認はあまりなされていなかった地域であるが、奈良、室町時代にかけての遺物がかなり採集されていることから、当時の人々の生活基盤となっていた地域と考えられる。また、当地域は南海本線二色ノ浜駅に接し、交通の便に有利であるという地理的条件から近年かなりの宅地化が進行してきている地域でもあり、ミニ開発等による遺跡の破壊が心配されている。現在、周辺は若干の水田耕作地が残っているが、今回発掘調査を実施した澱池のすぐ北側に接する地区も宅地造成を目的とした開発によるものである。

澱池遺跡周辺に散在する遺跡としては当遺跡の東側に弥生式土器や古墳時代の須恵器片等が散布している窪田遺跡が南北約300 m、東西約150 mの範囲で接しており、また所在の確認までにはいたっていないものの平安時代の寺院跡（窪田廃寺跡）も瓦片の採集状況から窪田遺跡内の一画に所在するものと思われる。北部には南海本線二色ノ浜駅の北側、浦田地区および沢地区の一部にその中心地をもつと考えられる戦国時代の遺跡である沢城跡が広がり、さらに澱池遺跡西方には国道26号線を挟んで平安時代を中心とした寺院跡の廃明楽寺跡が接している。

このように、当地域は採集遺物などからではあるが、弥生時代から戦国時代へと歴史的に幅広い時代環境をもつ地域であるといえよう。ただ、これら周辺遺跡についても若干の発掘調査等によりその性格が少しずつではあるが明確になろうとしてきてはいるものの、まだまだ不明瞭な点が多すぎることも事実である。

このような状況の中で今回の発掘調査結果は遺跡相互間のつながり、あるいは周辺遺跡への影響等を推察するうえにおいて貴重な発見資料といえるものである。以下、発掘調査の成果について現時点での整理状況から、その概要について報告する。



1. 堀遺跡 2. 泉州麻生塩壺出土地 3. 貝塚寺内町 4. 長楽寺跡 5. 加治・神前・畠中遺跡
6. 新井・鳥羽遺跡 7. 石才遺跡 8. 橋本遺跡 9. 新井ノ池遺跡 10. 沢共同墓地遺跡
11. 沢城跡 12. 沢海岸北遺跡 13. 沢海岸遺跡 14. 廃明楽寺跡 15. 澱池遺跡 16. 窪田廃寺跡
17. 丸山古墳 18. 地藏堂廃寺跡 19. 積善寺城跡 20. 下新出遺跡 21. 河池遺跡

第1図 貝塚市遺跡分布図 (1 : 25,000)

第二節 検出遺構

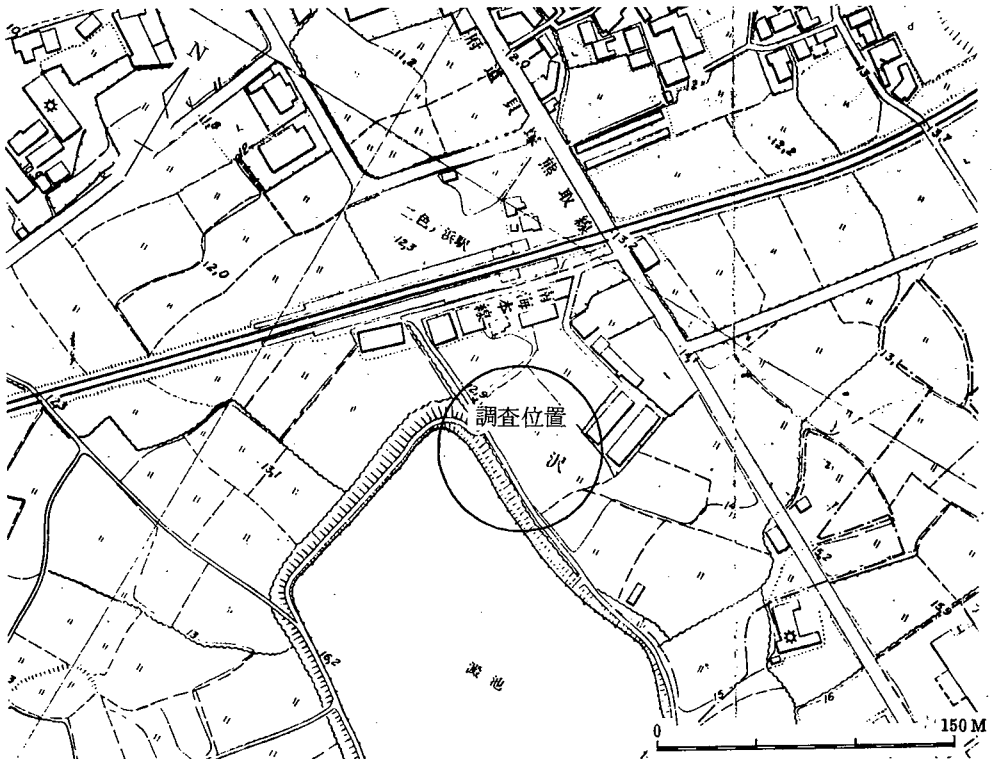
1. 検出遺構の概要

はじめに当地区の発掘調査を実施するにあたり開発の計画および立地条件等により、調査区域をA・B・C・Dの4区域に設定し、順次調査を行った。(第3図)

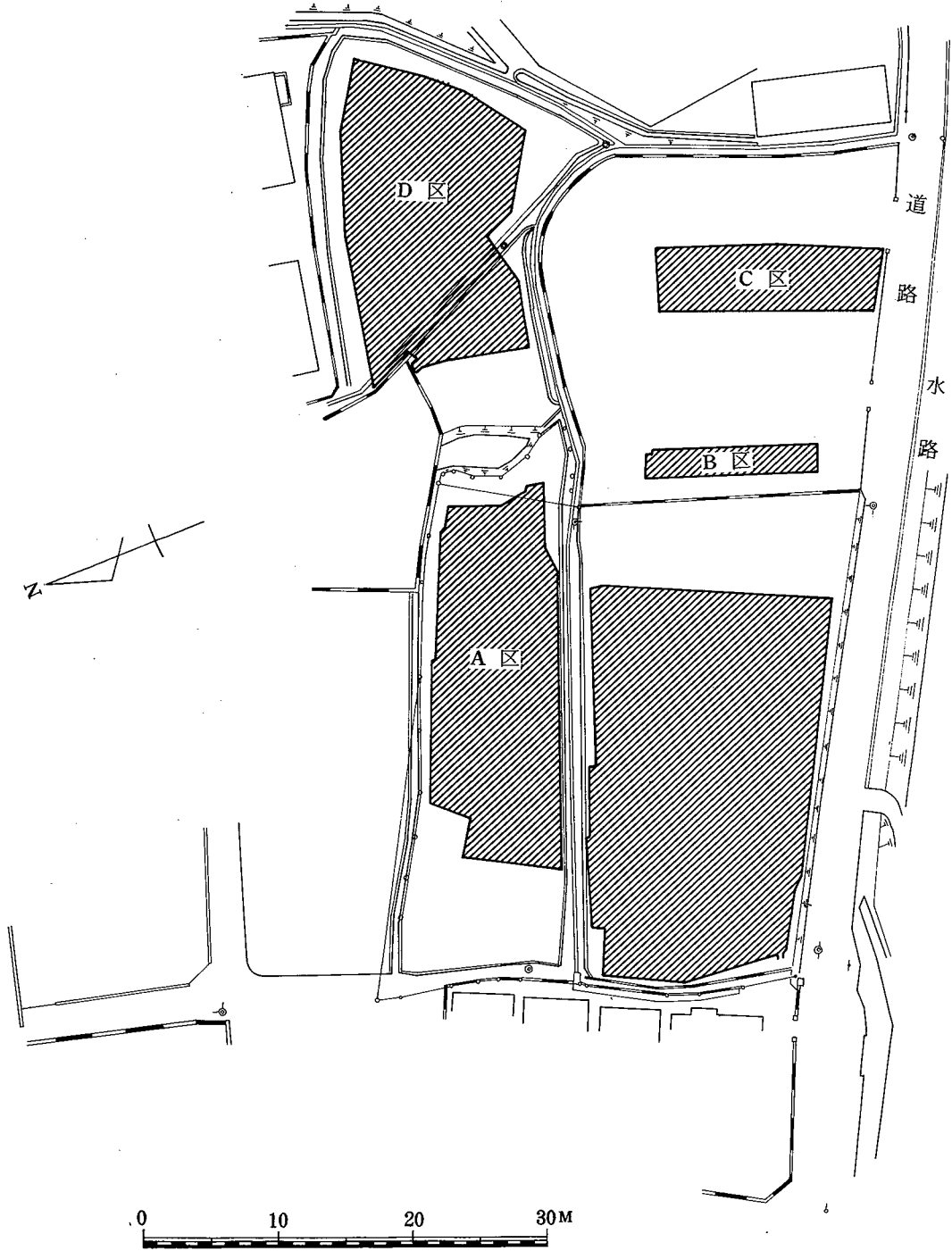
発掘調査面積はA区で約700㎡、B区で幅約2m、長さ約13mのトレンチ調査とし、約26㎡、C区も幅約5m、長さ約17mの約85㎡およびD区約300㎡の合計約1100㎡である。発掘調査開始前の状況としてはすでにB区・C区が耕作土より約0.7mの人工盛土を施した宅地造成地となっていたほかは水田耕作地のままである。

基本土層はB・C区の人工盛土を施した部分以下は概ね全調査区域にわたって同一土層状況を示しており、約0.2~0.3mの耕作土より順次約0.05~0.1mの黄色床土および約0.03~0.15mの淡茶褐色遺物包含土層となり、以下淡黄褐色地山土層となる。なお、D区北東部およびA区北東部では淡茶褐色遺物包含土層は認められなかった。

遺構の検出状況についてはすべて淡黄褐色地山面での検出であるが全区域より各種遺構



第2図 調査位置図



第3図 調査区域図 (1 : 500)

の存在が認められている。A区では掘立柱建物3棟を中心として、その他溝状遺構、土坑状遺構および不明確な落ち込み状遺構等を検出し、B区では溝状遺構のほかピットを、C区では2基の井戸状遺構のほか溝状遺構、土坑状遺構および多数のピット等が切り合い関係を有しながら検出され、D区では2基の井戸状遺構のほか溝状遺構およびピット等を検出した。

以上のように各種の遺構群ではあるが全調査区域より検出している。主な検出遺構をまとめると、掘立柱建物（SB）3棟、井戸状遺構（SE）5基、溝状遺構（SD）12条、土坑状遺構（SK）11基およびその他並びを有しないピット群（P）、不明確な落ち込み状遺構（SX）等である。以下、各種検出遺構についてそれらを種類別に分け、その主なものについて概略を記すことにする。

2. 掘立柱建物（SB）

掘立柱建物1（SB-1）

A区、東寄りに検出した建物跡である。規模は若干の歪みを有するものの1間約2.1m間隔で梁行4間（8.4m）、桁行7間（約14.7m）とかなり大形の総べた柱建物である。建物の方位については桁行柱軸でN-25°-Eである。主要部分の柱穴規模は直径0.35~0.5mの円形またはやや楕円形の掘り方を呈し、柱あたりについては確認し得たところで直径0.15m前後を呈していた。柱穴掘り方の深さはほぼ垂直に掘り窪め、遺構検出面より0.2~0.45mの深さを呈し底面もほぼ平坦に仕上げている。

なお、建物北東端にあたる梁行柱列については他の主要柱穴列に比べ、掘り方の直径が0.2~0.3m、深さ0.1~0.15mとかなり小形のものとなっており、構造的に縁あるいは廂部分になるものと考えられる。また、建物南西梁行柱列に平行に走る2間分の柱穴列および北西隅で桁行柱列に平行に走る柱穴列1間分を検出しており、それぞれの方位、柱間等から掘立柱建物1（SB-1）に取り付く廂状のものとなる柱穴列と考えられる。柱穴の規模は直径0.15~0.3mの掘り方を呈し、深さ0.1~0.2mを測り得た。

掘立柱建物2（SB-2）

掘立柱建物1（SB-1）の南西部に近接して検出した建物跡である。建物全体規模については調査区域外へのびていくため明確に捕えられなかった。現状での検出結果については1間約2m間隔で3間（約6m）および対方向へ1間分（約1.8m）である。建物方位は掘立柱建物1（SB-1）と同方位を示し、N-25°-Eである。柱穴規模は直径0.3~0.4mのほぼ円形の掘り方を呈し、柱あたりについては直径約0.10m前後を呈していた。

柱穴掘り方の深さはほぼ垂直に掘り窪められ、遺構検出面より0.05～0.2mを測り、ほぼ平坦な底面となっていた。

掘立柱建物3 (SB-3)

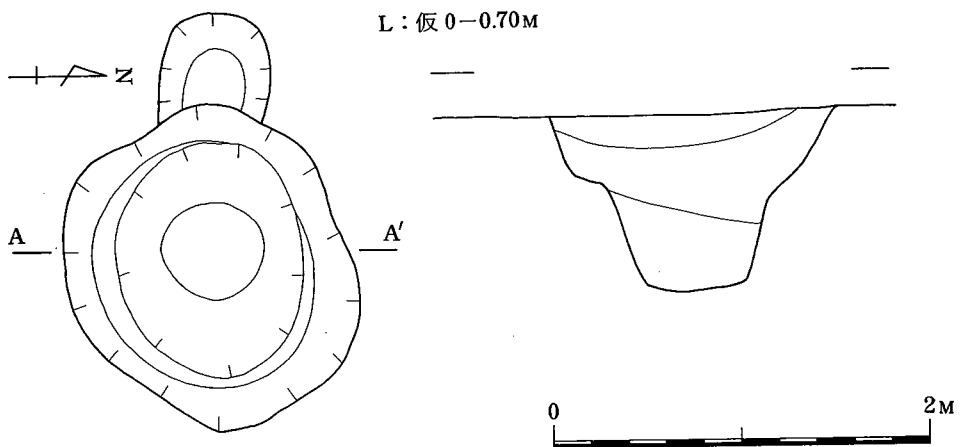
本報告では一応掘立柱建物3 (SB-3) として報告するものであるが、掘立柱建物2 (SB-2) 内に検出した1間約2mの1間四方かと考えられる建物跡である。掘立柱建物2 (SB-2) との時期的先後関係については不明である。柱穴の規模については直径0.25～0.3mのほぼ円形の掘り方を呈しており、掘り方の深さは遺構検出面より約0.1m前後を呈しほぼ垂直に掘り窪められていた。

なお、掘立柱建物3 (SB-3) については掘立柱建物2 (SB-2) と相共存するものとも考えることも可能であり、掘立柱建物2 (SB-2) を2時期に分け建物として拡張あるいは縮小したと考えることもできる。建造物としては若干の歪みを有しているが、建て替えにより拡張したものであれば、もとは一辺約 $2 \times 1.5 \times 2$ mの3間(約5.5m)の建物であり、拡張建て替えにより一辺約 $2 \times 2 \times 2$ mの3間(約6m)の建物となったと解することができる。縮小建て替えの場合は上記の逆である。いずれにしても、検出した建物跡については調査区域外へのびていくことから、その全容の把握ができなかったのは残念である。

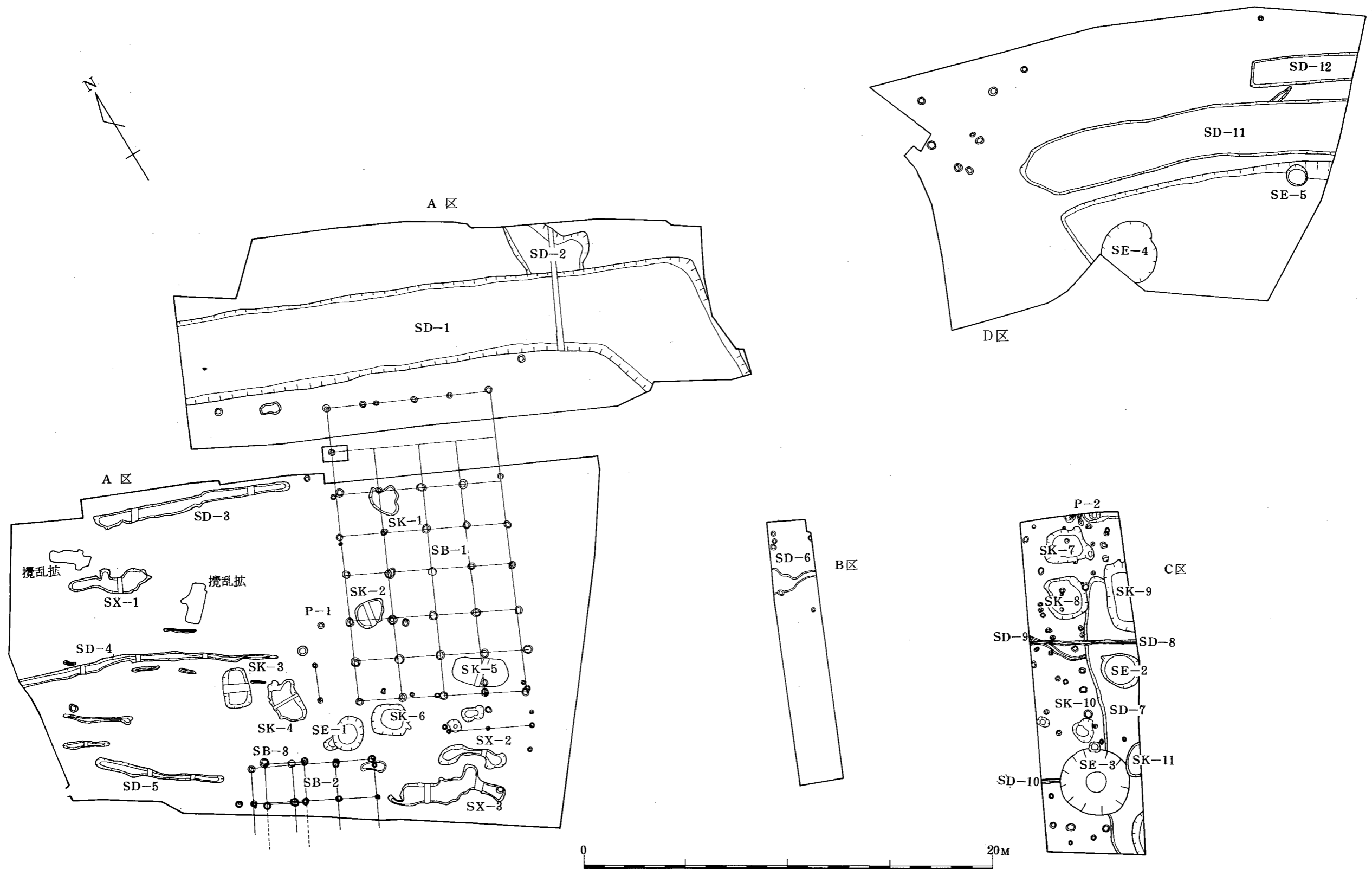
3. 井戸 (SE)

井戸1 (SE-1)

A区、掘立柱建物1 (SB-1) と掘立柱建物2 (SB-2) との間に挟れた状況で検出した素掘りの井戸である。



第4図 A区SE-1平面・断面実測図 (1:40)



第5図 遺構実測図 (1:200)

規模は遺構検出面で直径1.4～1.7 mのやや不正形な円形掘り方を呈していた。深さは遺構検出面より約 1 mを測り、底部に向かって掘り鉢状に狭くなり底部直径は約0.55 mであった。井戸1 (SE-1) の内外部にはその他設備等を施した痕跡は確認されず完全な素掘り状態であった。

なお、井戸1 (SE-1) 内の埋土堆積状況からその廃絶については井戸としての使用を終了したのち、ほぼ一気に人工的に埋め戻されており、しばらく上面で深さ約0.2 m程度の自然の窪み状となっていたと考えられるがそれものに人工的に埋め戻されているようである。

井戸2 (SE-2)

C区で検出した2基の井戸のうち調査区の中央部東寄りに検出したものである。

規模は遺構検出面で直径1.6～2.0 mのやや楕円形の掘り方を呈し、ほぼ垂直に掘り下げられた素掘りの井戸である。深さは遺構検出面より約2.6 mを測り得た。

井戸内の埋土堆積状況については底面より約1.2 m上部までは幾重にも木葉等の有機物が混入する自然堆積状況を示しており、井戸としての使用を終了したのち約1.4 mほど人工的に埋め戻されたようである。

井戸3 (SE-3)

C区、井戸2 (SE-2) の南西部で検出した遺構で、今回の調査で検出した5基の井戸の内最大の規模を有するものである。

規模は遺構検出面で直径約3.3 mの円形の掘り方を呈し、以下掘り鉢状に底部に向かって狭まくなり、遺構検出面より約2 mの深さで直径約0.8 mとなる。それより下方へ約1.2 mほどほぼ垂直に掘り下げた漏斗状を呈する素掘りの井戸である。最終底面までの深さは遺構検出面より約3.2 mを測り得た。

井戸3 (SE-3) 内の埋土堆積状況については井戸としてどの程度の期間を使用していたか明確ではないが、ほぼ全体にわたり幾重にもレンズ状に土層が薄く堆積していることから井戸としての使用を終了した後自然に埋没していったようである。

井戸4 (SE-4)

D区で検出した大小2基の井戸の内、調査区の南西部で検出した遺構である。

規模は遺構検出面で直径約2.9 mのほぼ円形の掘り方を呈していた。深さについてはほぼ垂直に掘り下げられており約2 mまでは検出したが、調査を継続するには危険な状態となったため掘削作業を途中で中止し、底部までの検出にはいたっていない。

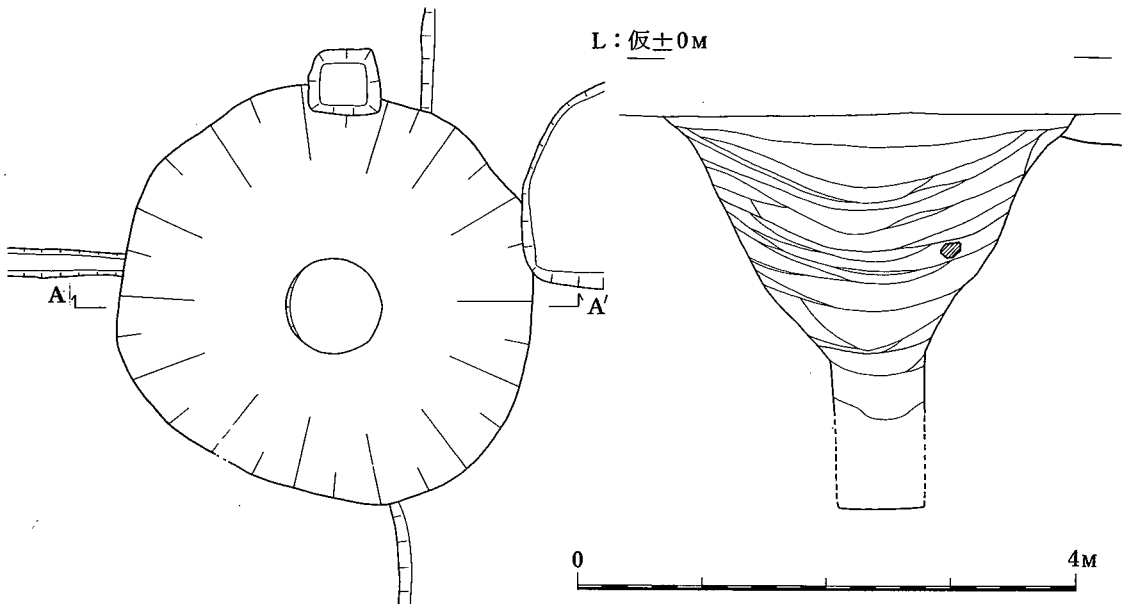
井戸内の埋土堆積状況については検出し得た所までではあるが、井戸としての使用を終了後一気に埋め戻されているようである。

井戸 5 (SE-5)

D区、中央部東端で検出した遺構である。

規模は遺構検出面で直径約 1 mを測る円形の掘り方を呈していた。底面でやや狭くなるとはいえほぼ垂直に掘り下げられた素掘りの小形の井戸であるが、底面までの深さは約 2.3 mを測り得た。

井戸内の埋土堆積状況については井戸としての使用を終了するとともに上面から約 0.3 mほどまでこぶし大の少量の礫と多量の土器類とともに埋め戻されており、しばらくの間は自然の窪み状となっていたようであるが、それも自然に埋没していったようである。



第6図 C区SE-3平面・断面実測図 (1:60)

4. 溝 (SD)

今回の調査で検出した溝状遺構として、A区では調査区の北および西方部より5条の溝状遺構および数条の溝状的な遺構を検出し、B区では調査トレンチ北寄り1条、C区では各検出遺構とそれぞれ切り合い関係を有しながらではあるが4条の溝状遺構を検出し、D区では平行して走る2条と合計12条を検出した。

それぞれの規模等についてはかなりの差異を示すものであるが、以下これら12条の溝の

うち出土遺物等の関係から時期的判断を示すことのできる溝1（SD-1）、溝7（SD-7）についてその概略を記すことにする。

溝1（SD-1）

A区、北側で検出した溝である。規模は幅約4mとかなり広く、遺構検出面よりの深さは約0.20～0.35mを測り得た。方位については東南東方向より西北西方向に直線的に流れをもち調査区域外へのびる。また、溝1東端部では直角方向とはいきれないが南方向に屈曲し調査区域外へのびていく。

なお、南方向へのびる延長上でB区にあたるが、調査の結果からは溝1の延長部分を確認することができず、B区に到達するまでに消滅あるいは東方へさらに屈曲していくものかと考えられる溝である。

溝7（SD-7）

C区調査トレンチ東壁に沿って検出した溝である。規模については調査区域外へそれぞれ広がっているため明確に捕えられるものではないが、検出し得た部分で幅約2.5m以上、遺構検出面よりの深さ約0.25mを測り、検出全長約13.5mである。方位については南南西方向へのびるものである。

また、調査の結果から溝7と切り合い関係を有する遺構も多く溝7よりも古い時期の遺構として井戸2（SE-2）、溝9（SD-9）があげられ、溝7の廃絶後の新しい遺構としては井戸3（SE-3）、溝8（SD-8）、土壇9・11（SK-9・11）がそれぞれあげられる。

溝7内堆積埋土の状況については溝1とほぼ同一埋土を呈しており堆積埋土から見るかぎり溝1および溝7は両者相共存する同一時期のものかと考えられる。

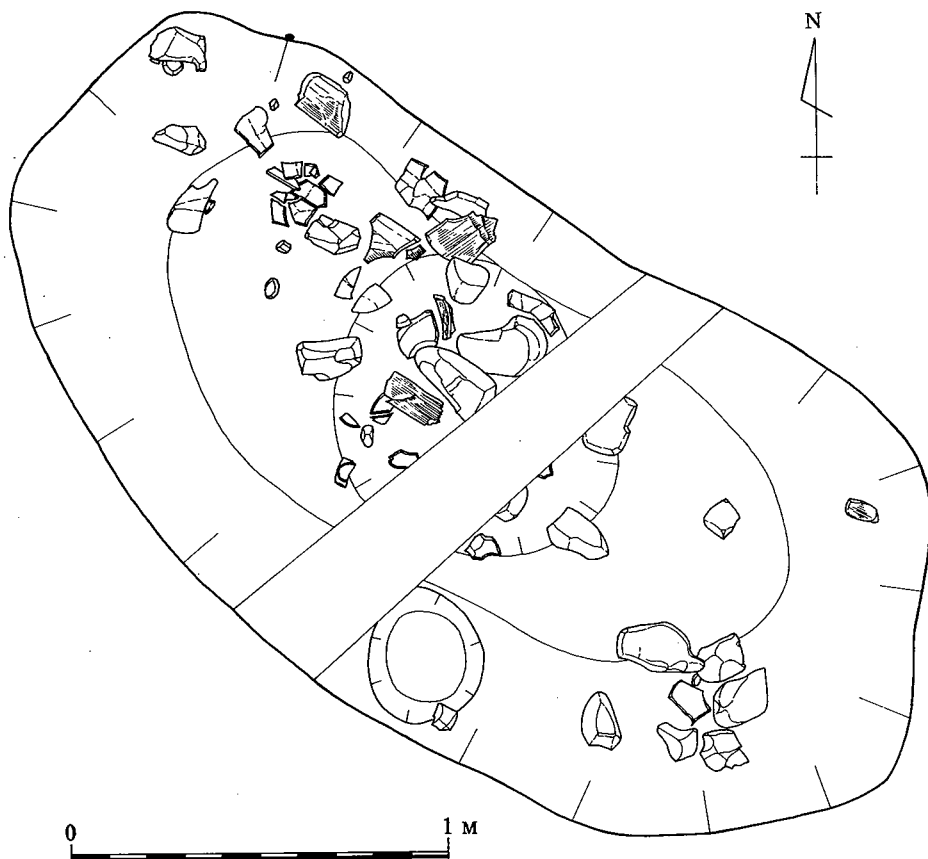
以下、今回の調査で検出し得たその他の溝状遺構については、出土遺物等もほとんど無く時期的考察をし得ない状況のものであることから報告については割愛した。

5. 土 塚 (SK)

土塚状遺構についてはA区、C区より多数検出しているが、それぞれの形態、規模等にかなり差異が認められる。今回の報告では時期的判断を有し得る土器片等の遺物が出土している土塚5 (SK-5)、土塚6 (SK-6)、土塚10 (SK-10) についてその概略を記すことにする。

土塚5 (SK-5)

A区、掘立柱建物1 (SB-1) 内南端で検出したものである。規模は長辺約 2.5m、短辺約 1.5mの楕円形を呈す。遺構検出面よりの深さは約0.05~0.20mで土塚ほぼ中央部で径約 0.8m程度の円形の窪み状となっている。性格等については不明確なものであるが、土塚内からは土器片とともに径約0.03~0.20mほどの礫を多数検出した。



第7図 A区SK-5平面実測図 (1:20)

土坑6 (SK-6)

A区、土坑5 (SK-5) の西側約3mの地点、掘立柱建物1 (SB-1) と井戸1 (SE-1) に近接して検出した遺構である。規模は径約1.50~1.80mのやや楕円形を呈し、遺構検出面よりの深さは約0.10mを測り得た。土坑内からは実測不可能に近い土器片ではあるが多数出土している。

土坑10 (SK-10)

C区、井戸3 (SE-3) の北側に近接して検出したものである。規模については径約1m前後の不定形な円形を呈し、遺構検出面よりの深さは約0.6mを測り得た。土坑内からはその上面から底場まで径約0.05~0.30mほどの礫が土器片とともに多数検出された。性格等については不明確であるが検出した礫、土器片等を廃棄するために設けられた土坑かと考えられる。

以上、本調査区では検出した各種遺構群のほか出土遺物の確認にはいたっていないが、A区で性格不明の不定形な溝状落ち込みSX-1・2・3やC区で多数検出しているピット群がある。それら各遺構の時期的考察については出土遺物も少なく不明といわざるを得ないものばかりである。

第三節 出土遺物

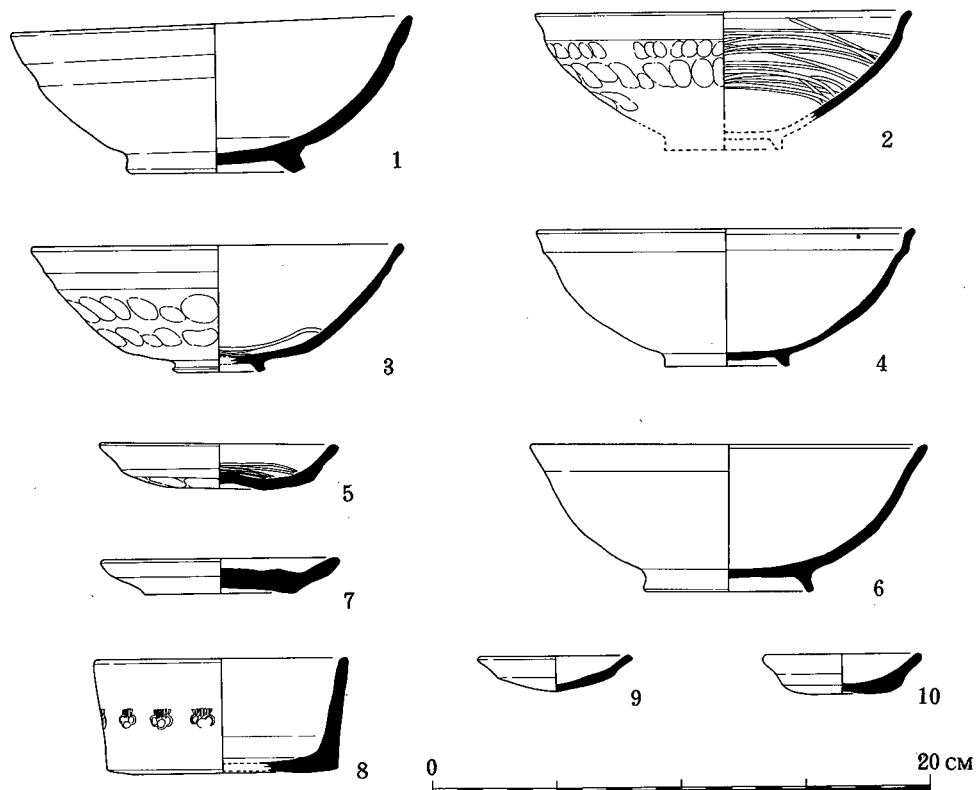
本調査区A・B・C・D区内より出土した土器類その他の遺物についてそのほとんどは生活雑器類で占められている。

本報告では各遺構内より出土している遺物について実測可能なものを取りまとめ報告するものであり、各遺構内より出土している遺物量については小破片をも含めるとかなりの出土量である。以下、出土遺物についてその概要を記すことにする。

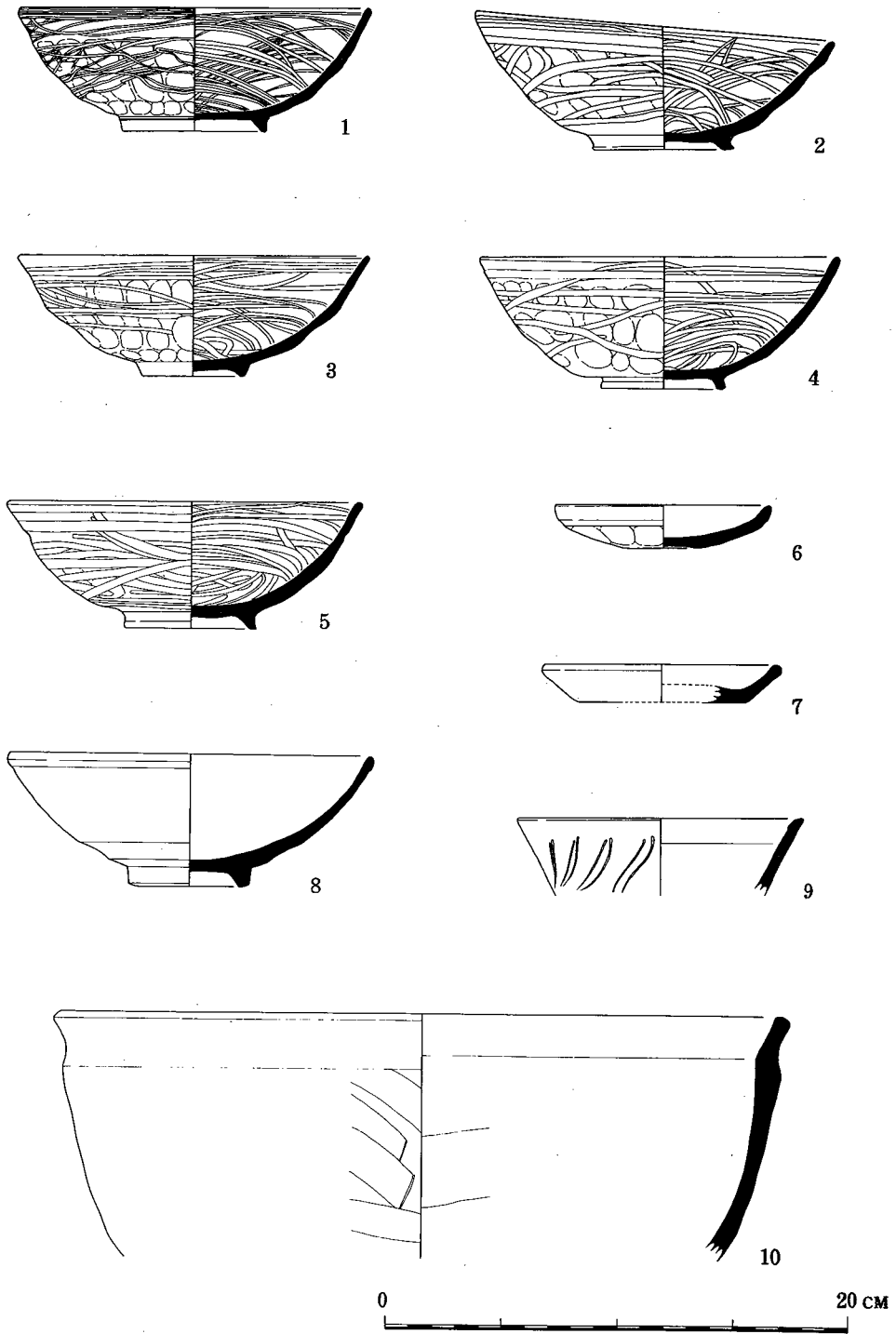
1. 掘立柱建物・ピット出土遺物 (第8図、図版14)

掘立柱建物1 (SB-1) 柱穴掘り方より出土したものとしては瓦器碗 (1~3)、瓦器小皿 (5)、土師器小皿 (7) で、掘立柱建物3 (SB-3) 柱穴掘り方内からは瓦器碗 (6)、掘立柱建物1 (SB-1) に近接するピット1 (P-1) からは瓦器碗 (4) がそれぞれ出土している。これらの出土遺物は形態等より概ね同時期あるいは相近接する時期のものと考えられる。

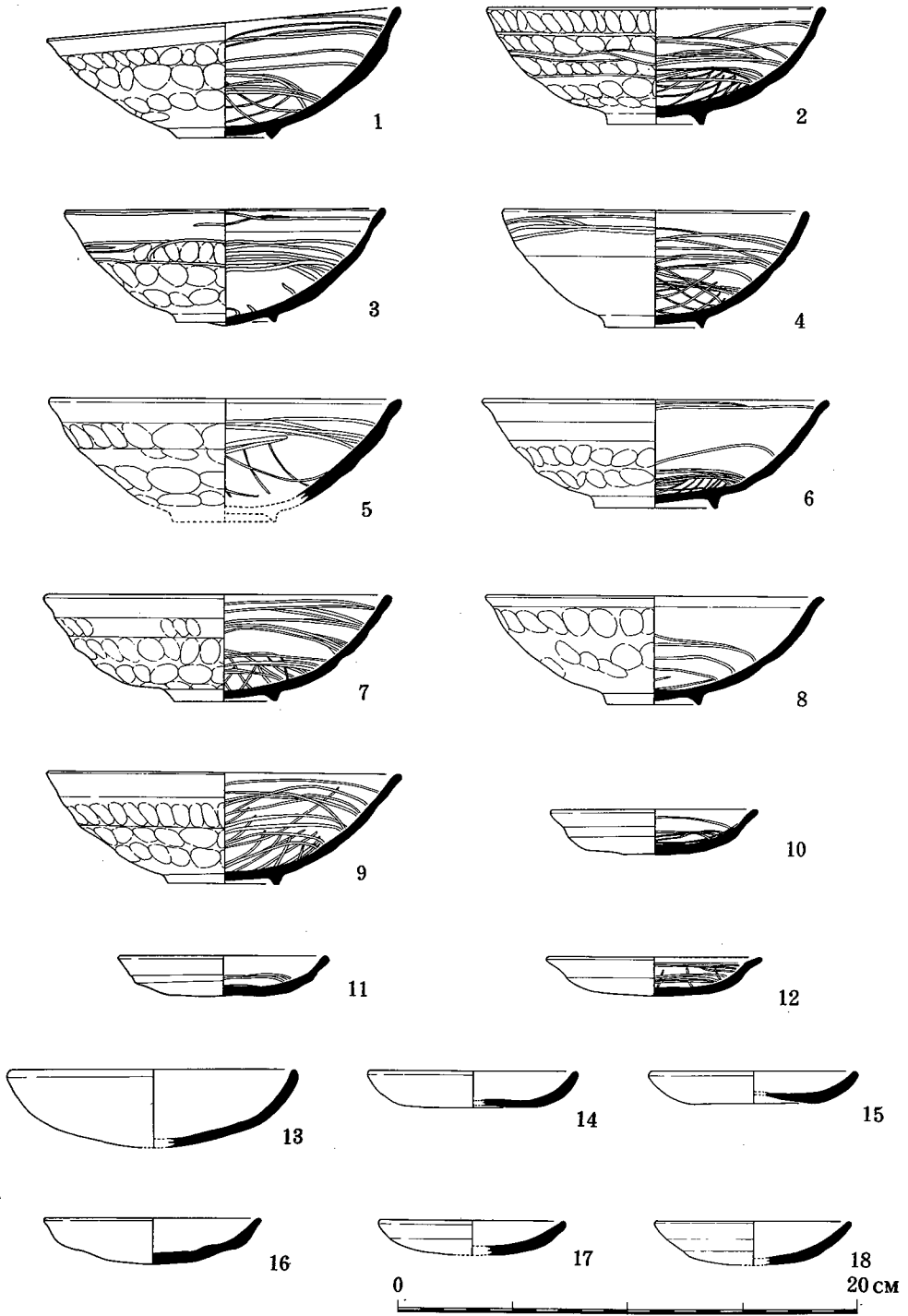
その他図示できるものとしてはC区北端で検出したピット2 (P-2) より瓦質土器



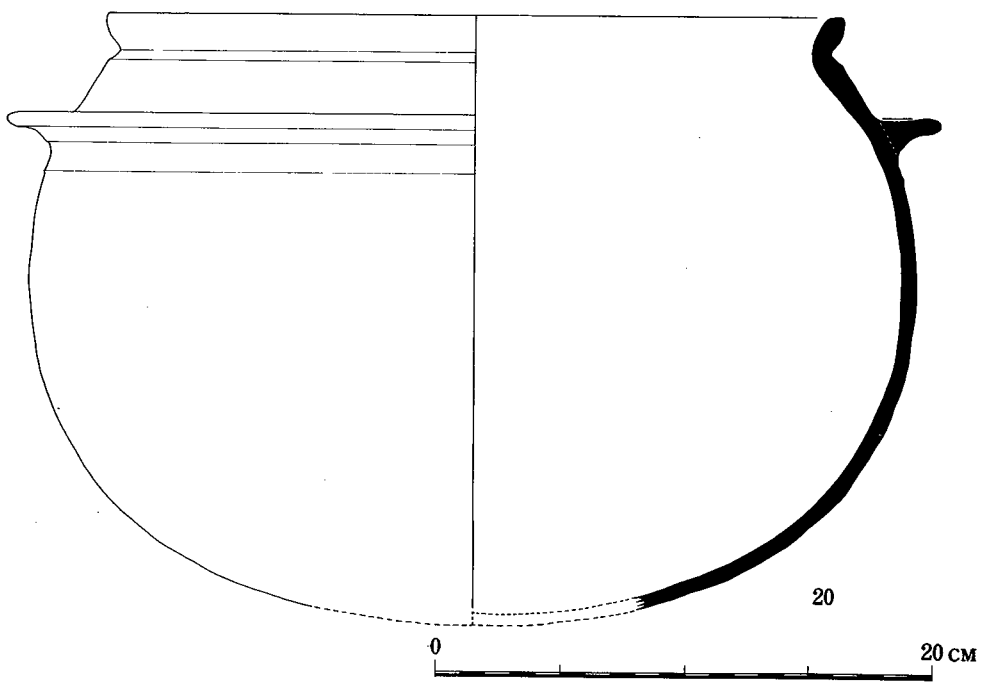
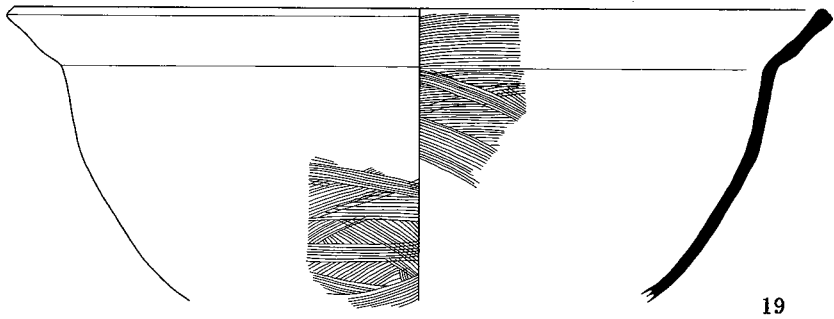
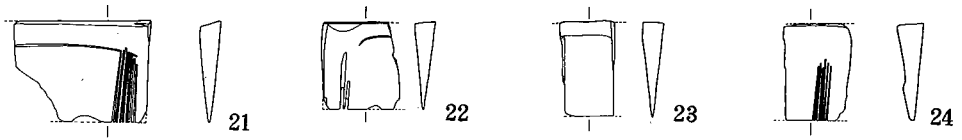
第8図 SB-1,3,ピット出土遺物実測図 (1:3)



第9图 A区SE-1出土遗物实测图 (1:3)



第10图 C区SE-2出土遗物实测图 (1:3)



第11图 C区SE-2 出土遗物实测图 (1:3)

(8)、土師器小皿(9・10)がある。

2. 井戸出土遺物(第9~18図・図版15~28)

井戸1(第9図、図版15)

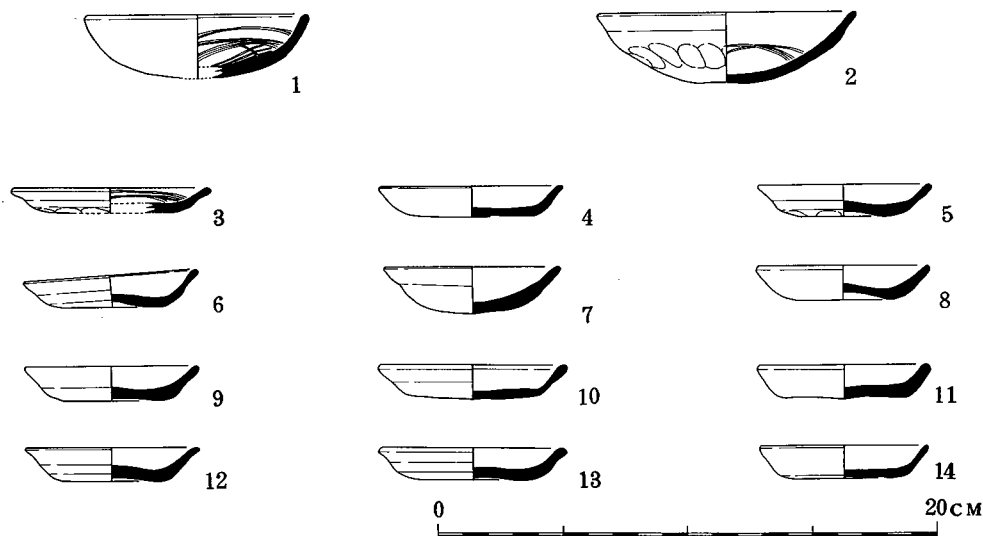
井戸1(SE-1)内よりの出土遺物としては瓦器碗(1~5)、瓦器小皿(6)、土師器小皿(7)、土鍋片(10)、陶磁器碗(8・9)等があげられる。遺物出土位置については陶磁器碗、土鍋片が上層部より出土したほかは井戸内中・最下部よりの出土である。

井戸2(第10・11図、図版16~18)

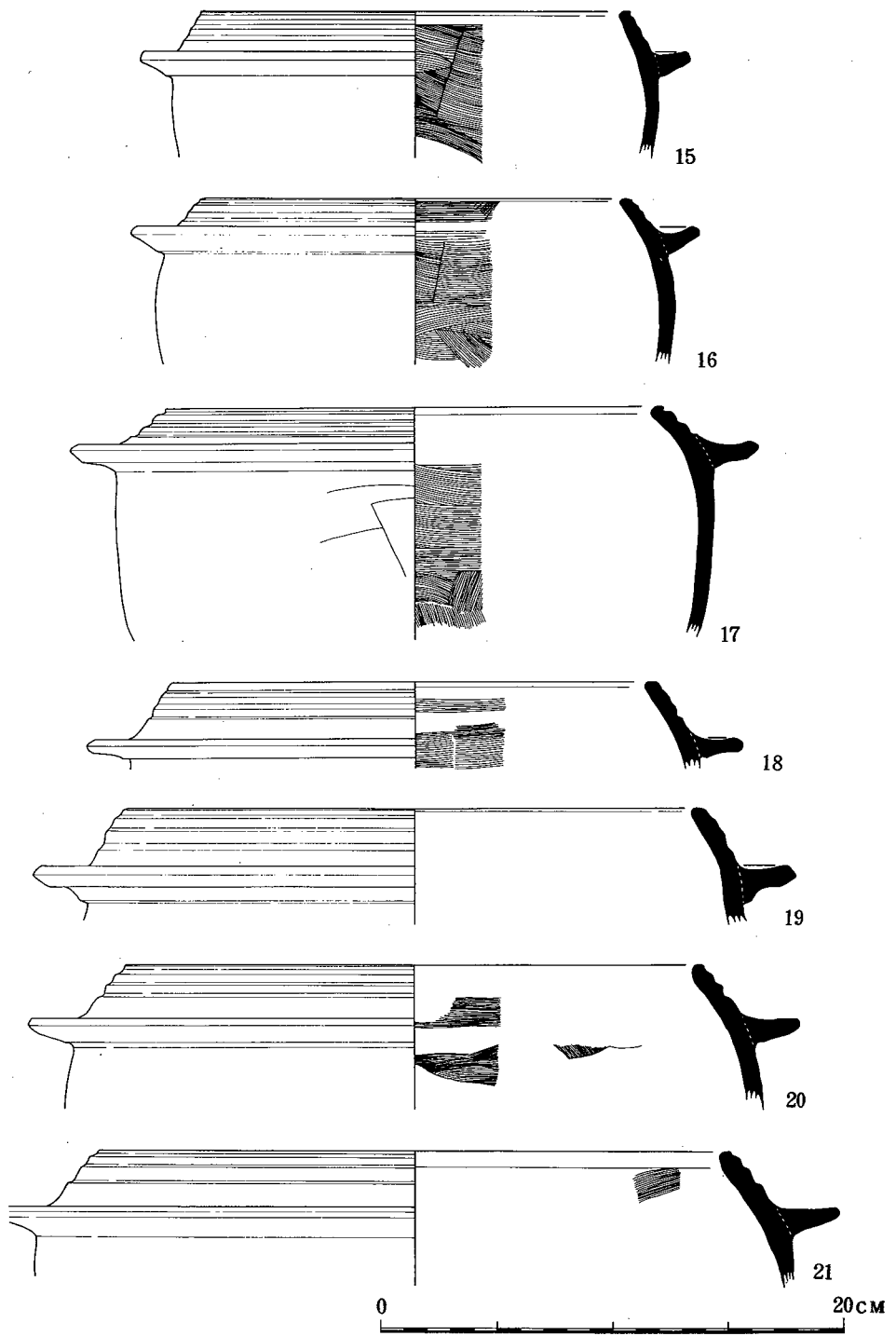
井戸2(SE-2)からは瓦器碗(1~9)、瓦器小皿(10~12)、土師器小皿(13~18)をはじめ土鍋(19)、羽釜(20)や丸瓦も出土している。遺物出土位置については井戸内自然堆積土上面の人工埋土を施した部分からの出土がほとんどである。また、未成の木櫛片(21~24)も出土しているが、これらは井戸内底部に近い自然堆積土部からの出土である。

井戸3(第12~14図、図版19~21)

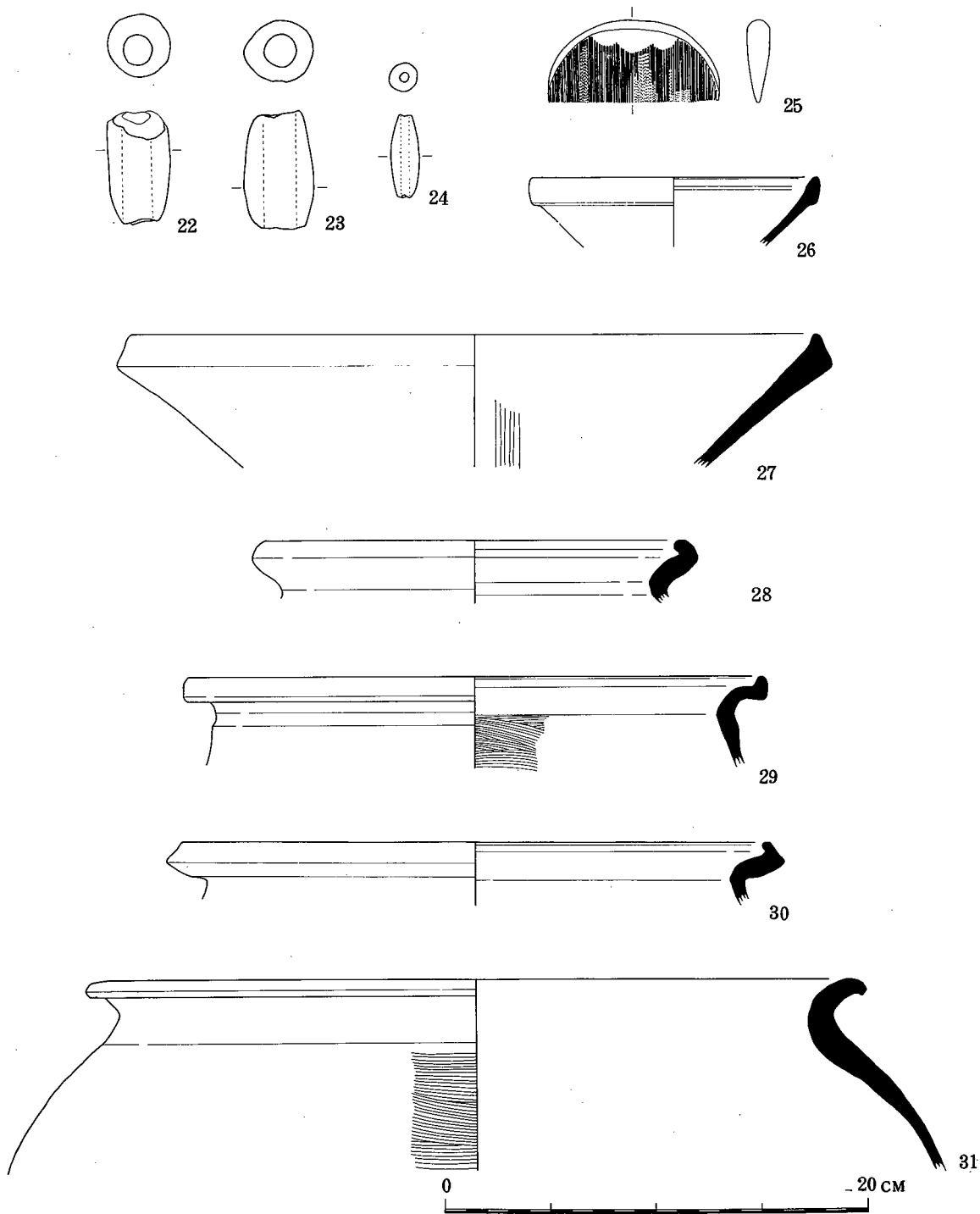
井戸3(SE-3)内からは瓦器碗・小皿等の出土は少なく実測可能なものとしては瓦器小碗(1・2)、瓦器小皿(3)が認められるのみであり、あと土師器小皿(4~14)、羽釜片(15~21)、土錘(22~24)、練鉢片(27)、甕片(28~31)、陶磁器碗片(26)等が井戸内上層から下層にいたるまでほぼ全域にわたって出土している。その他出土遺物としてほぼ完全な形で木櫛(25)1点が出土している。



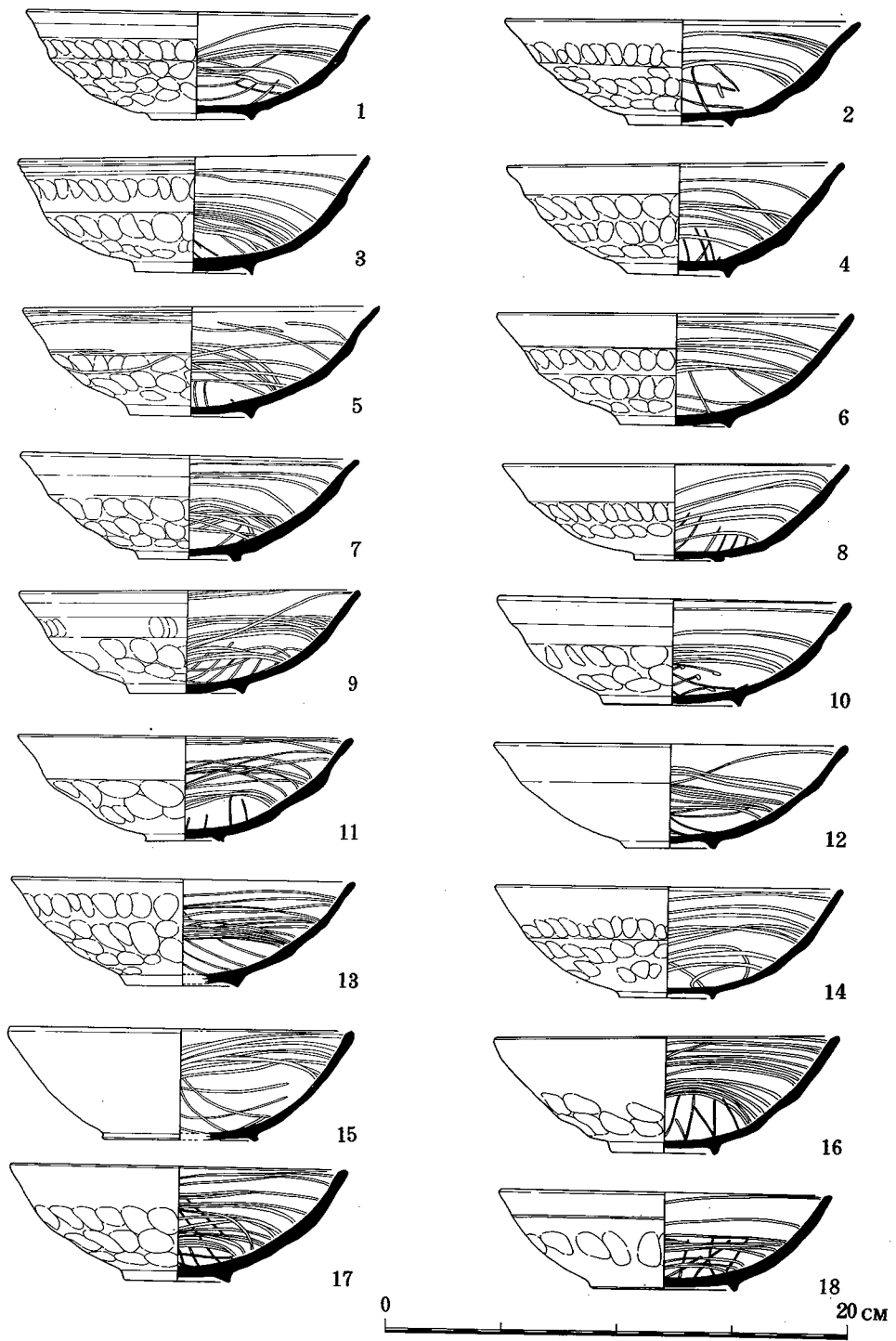
第12図 C区SE-3出土遺物実測図(1:3)



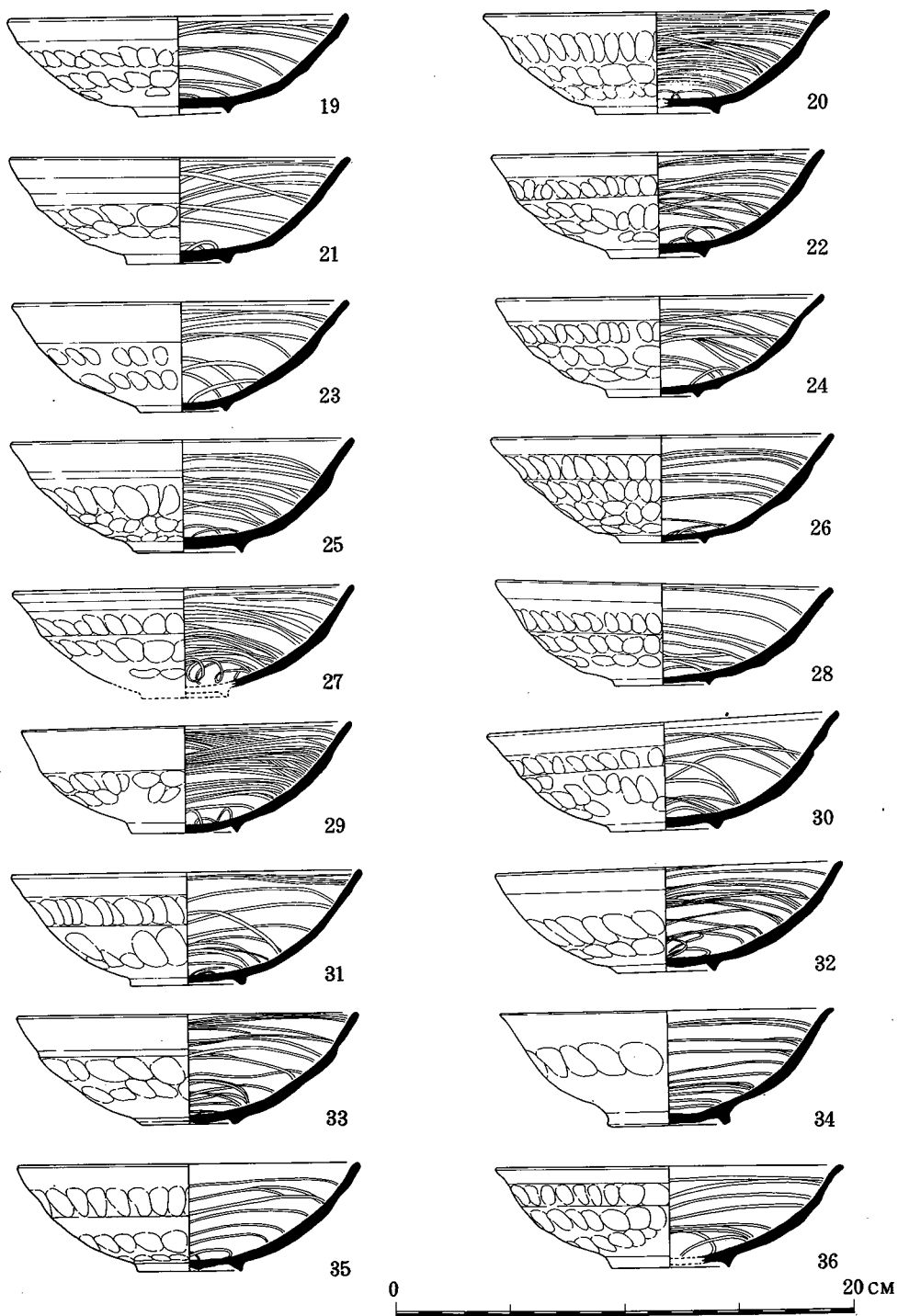
第13图 C区SE-3 出土遺物実測図 (1:3)



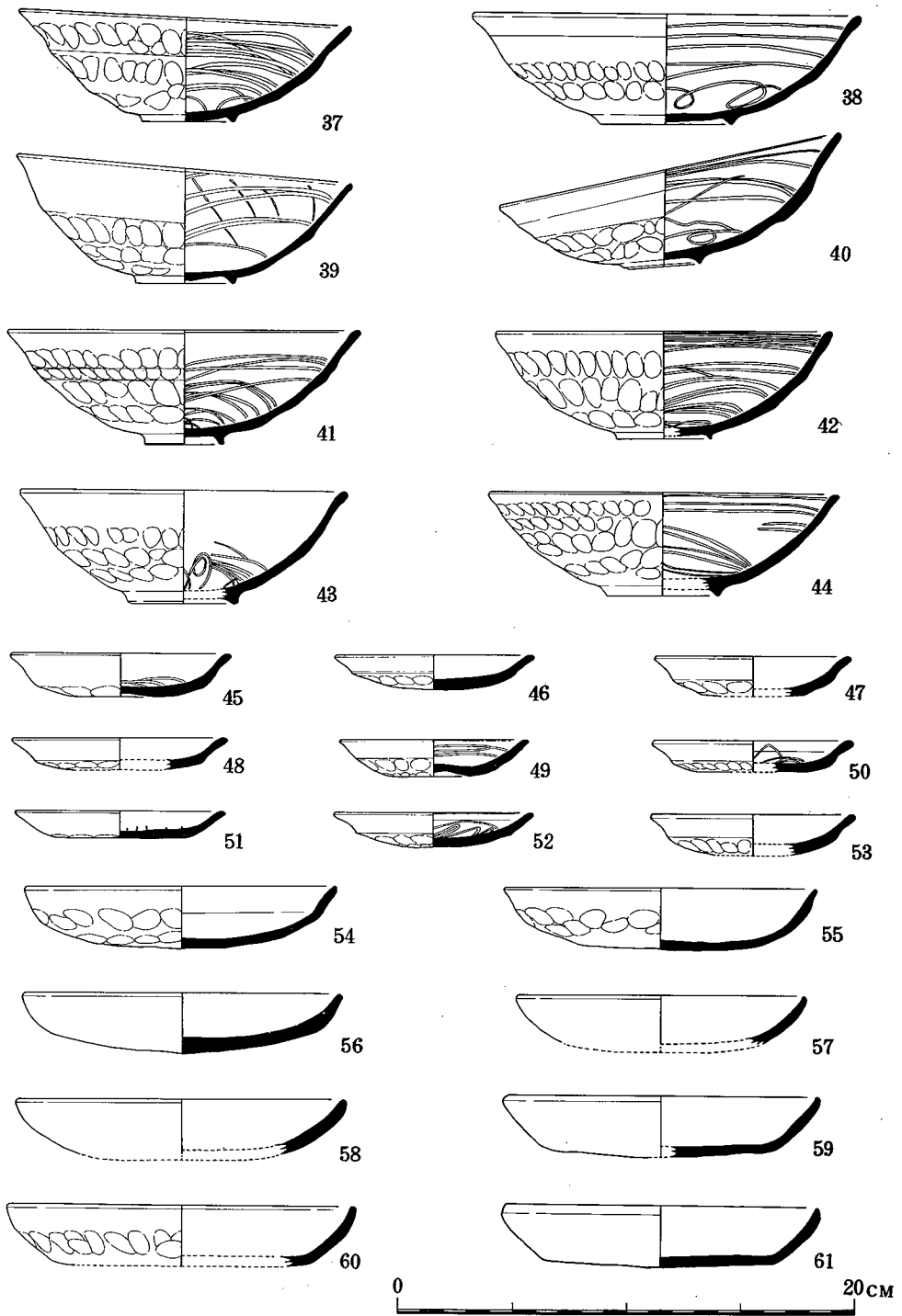
第14图 C区SE-3出土遺物実測図(1:3)



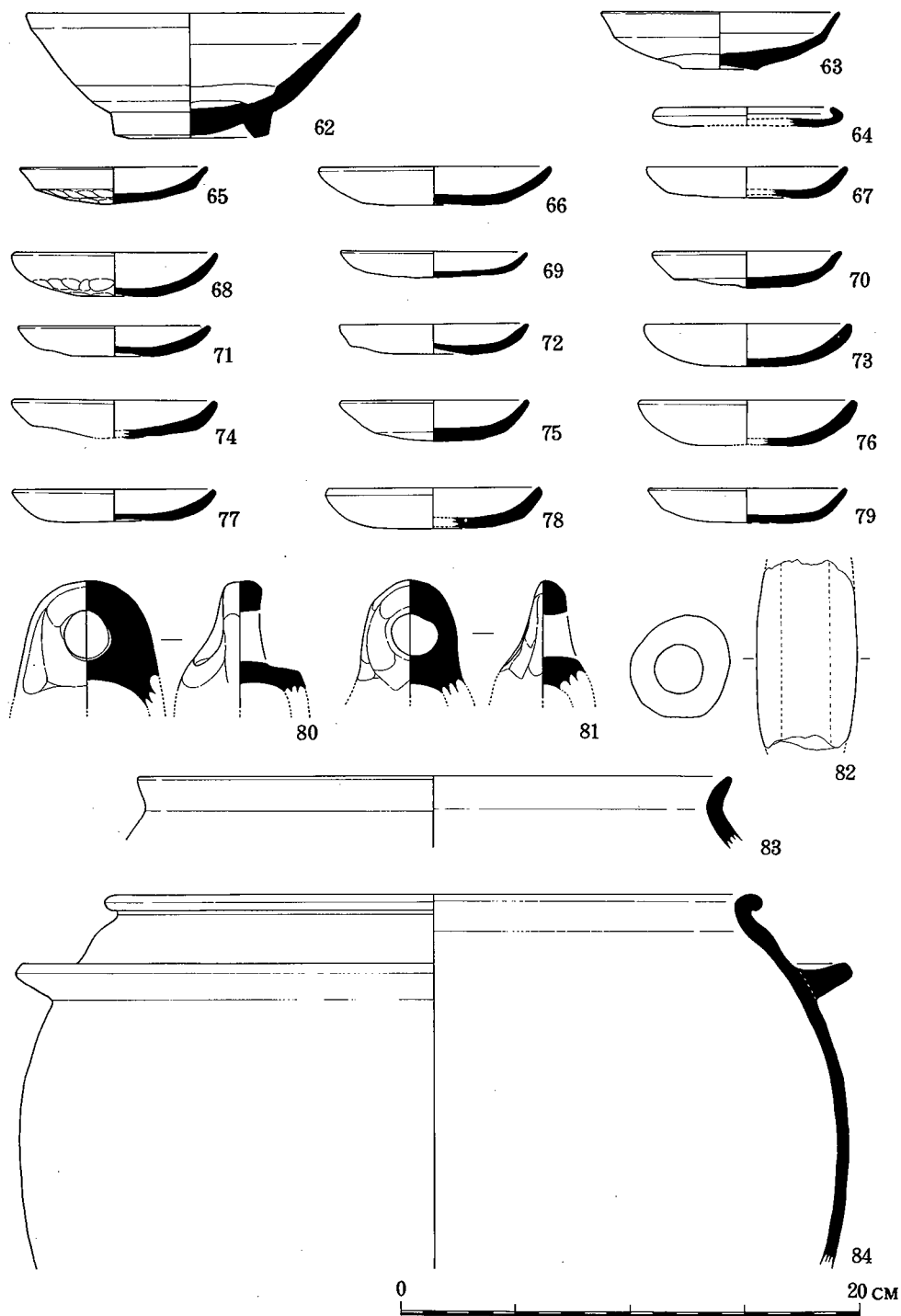
第15图 D区SE-5出土遗物实测图(1:3)



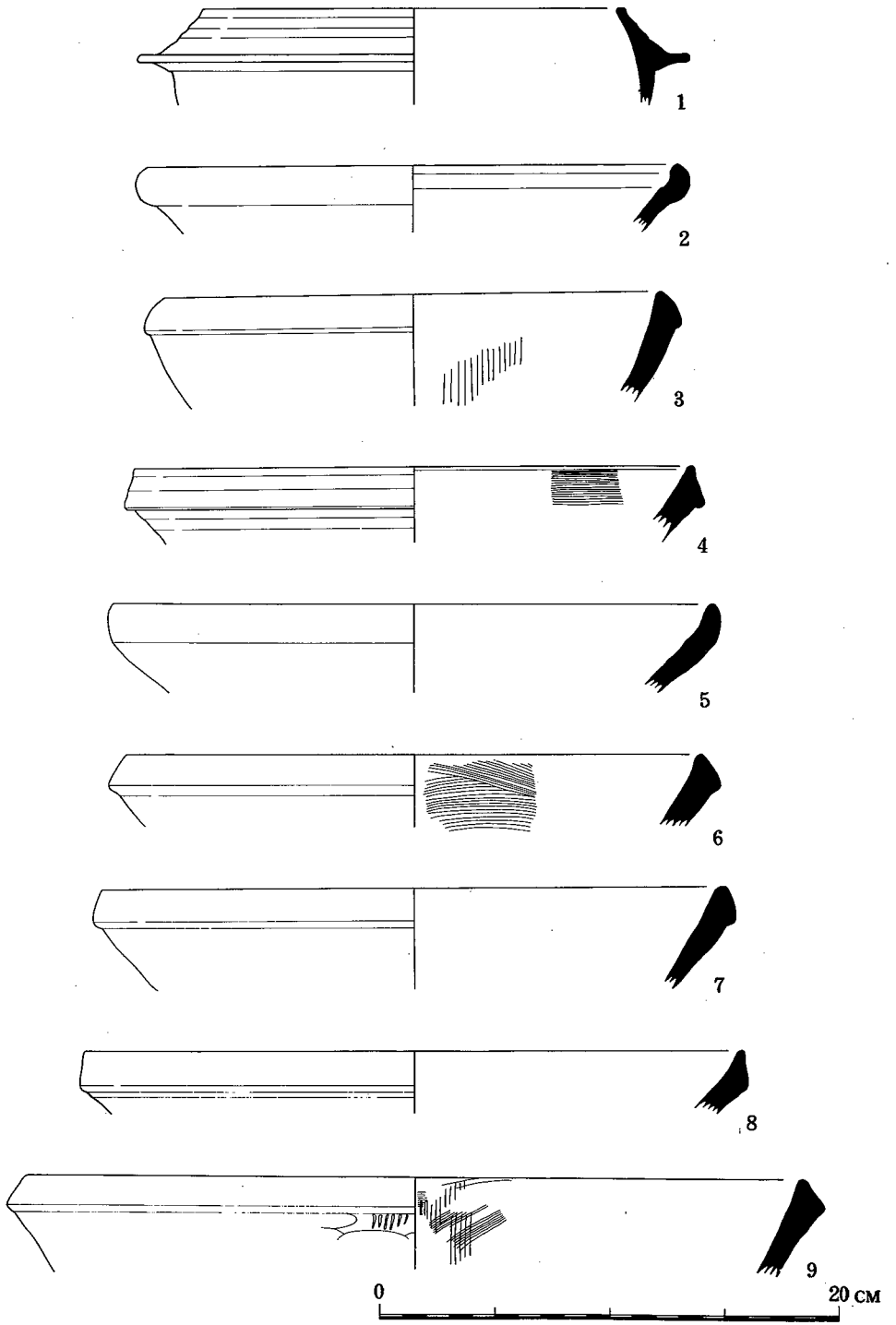
第16图 D区SE-5出土遗物实测图(1:3)



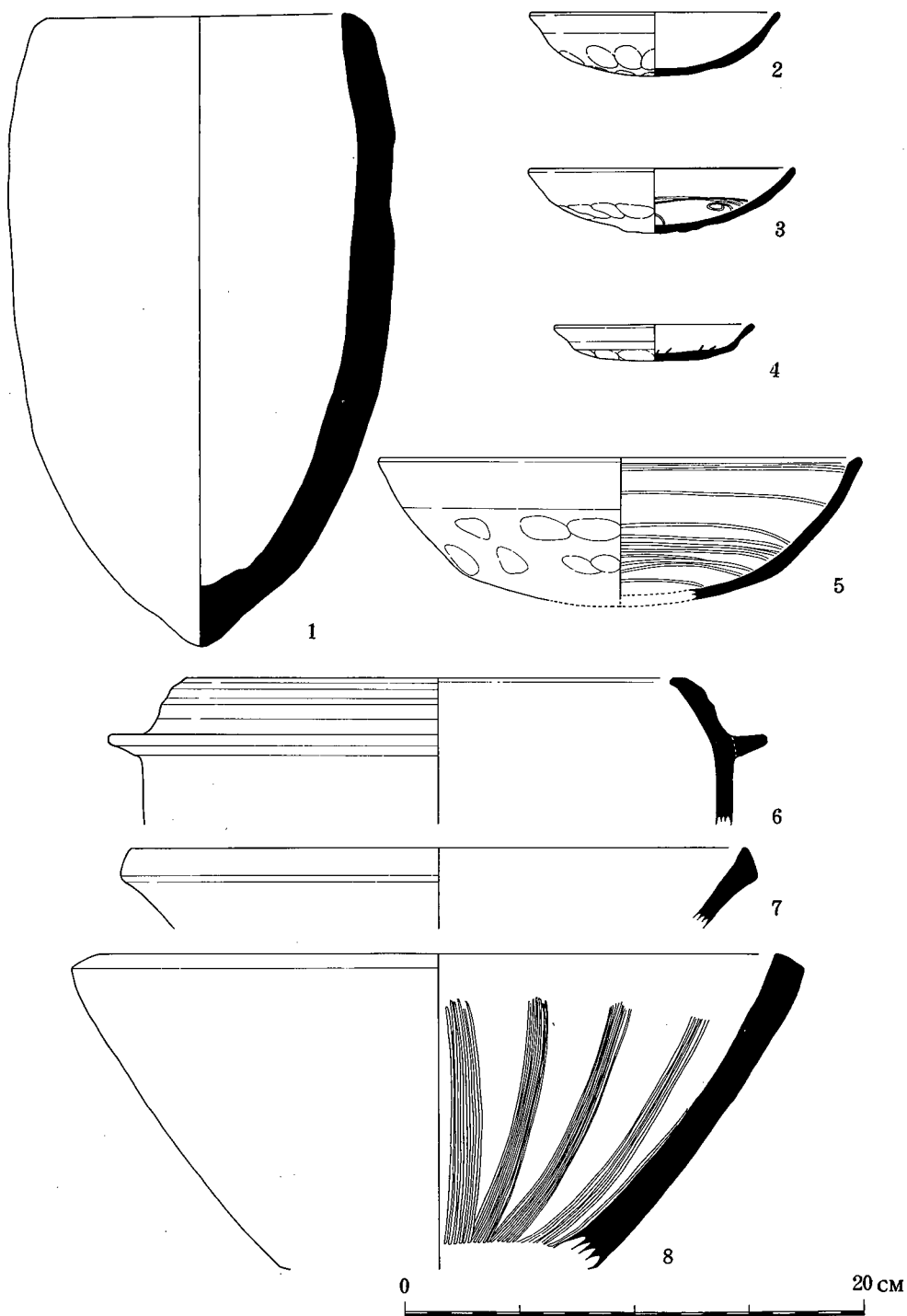
第17图 D区SE-5出土遗物实测图(1:3)



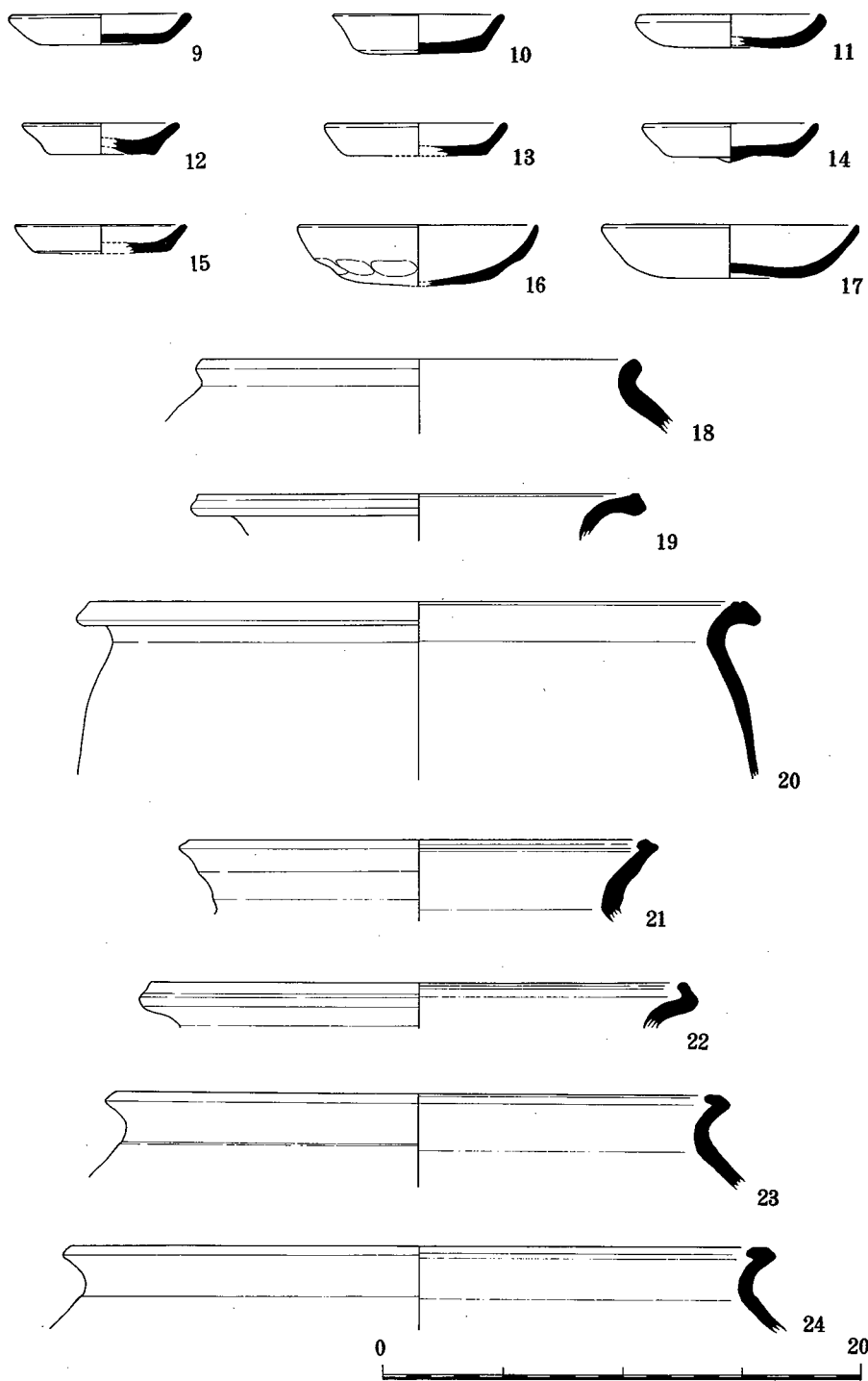
第18图 D区SE-5出土遗物实测图(1:3)



第19图 A区SD-1出土遗物实测图 (1:3)



第20图 C区SD-7出土遗物实测图(1:3)



第21图 C区SD-7出土遗物实测图 (1:3)

井戸 5 (第15~18図、図版22~28)

井戸 5 (SE-5) 内からはその上層より最下層にいたるまで多量の遺物が検出されその大半は瓦器碗 (1~44) で占められている。その他瓦器小皿 (45~53)、土師器皿 (54~61)、小皿 (64~79)、陶磁器碗 (62)、陶磁器小皿 (63) のほか土錘 (82)、蛸壺片 (80・81)、甕片 (83) および羽釜 (84) 等が出土している。

3. 溝出土遺物

溝 1 (第19図、図版29)

溝 1 (SD-1) 内よりの出土遺物としては小破片となつての出土であり、量としても少量である。器種としては羽釜片 (1)、練鉢片 (2~9) のほか、実測不可能ではあるが土錘片、土師器小皿片等である。

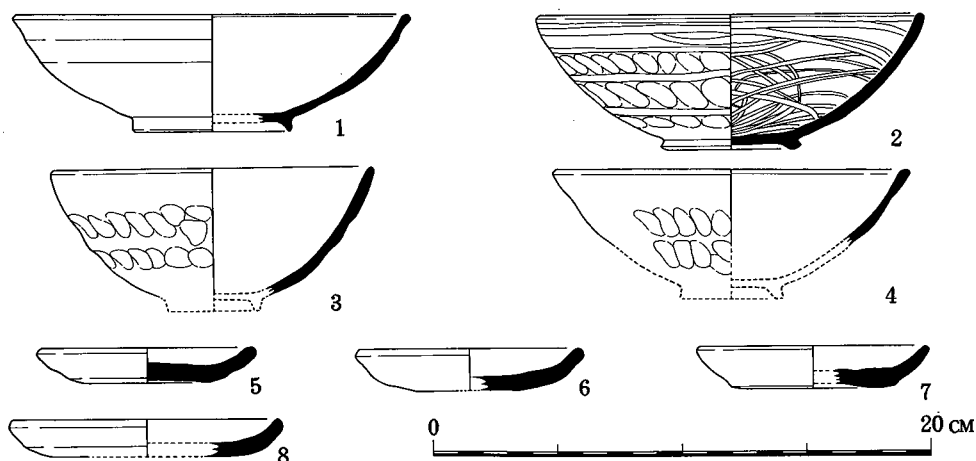
溝 7 (第20・21図、図版30・31)

溝 7 (SD-7) からは瓦器小碗 (2・3)、瓦器小皿 (4)、片口状の口縁を呈すると考えられる瓦器鉢 (5) のほか蛸壺 (1)、播り鉢 (8)、土師器小皿 (9~15)、羽釜片 (6)、甕片 (18~24) および土錘片等が出土している。出土位置としては概ね溝内底部よりの出土であるが、蛸壺 (1) については溝内最上層部からの出土である。

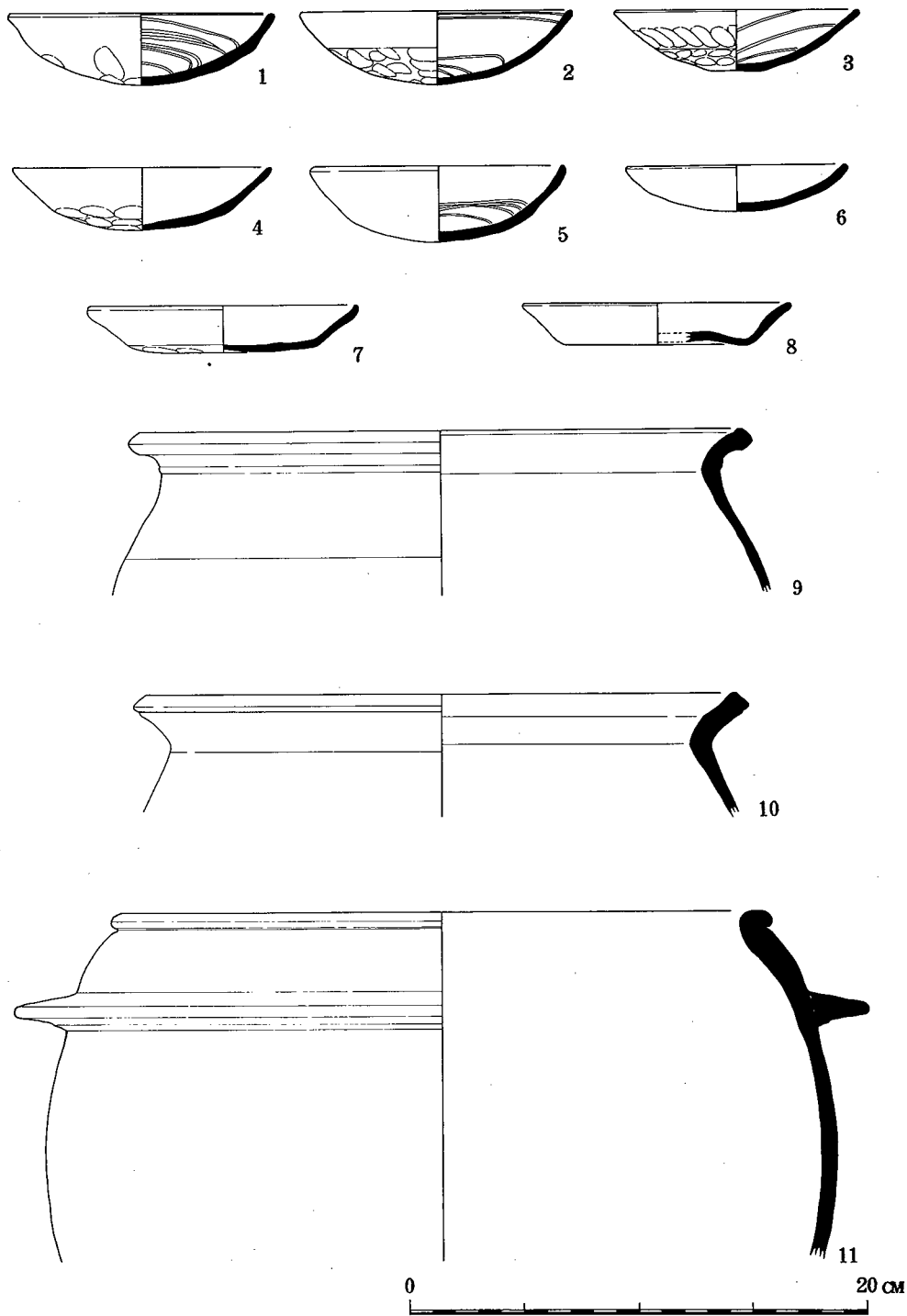
4. 土坑出土遺物

土坑 5 (第22図)

土坑 5 (SK-5) からの出土遺物としては多量の礫とともにかなり摩滅しているもの



第22図 A区SK-5出土遺物実測図 (1:3)



第23图 C区SK-10出土遗物实测图(1:3)

の瓦器碗（1～4）、土師器小皿（5～8）および瓦器小皿片等が出土している。また、小破片となつての出土であるが竈形土器片も出土している。

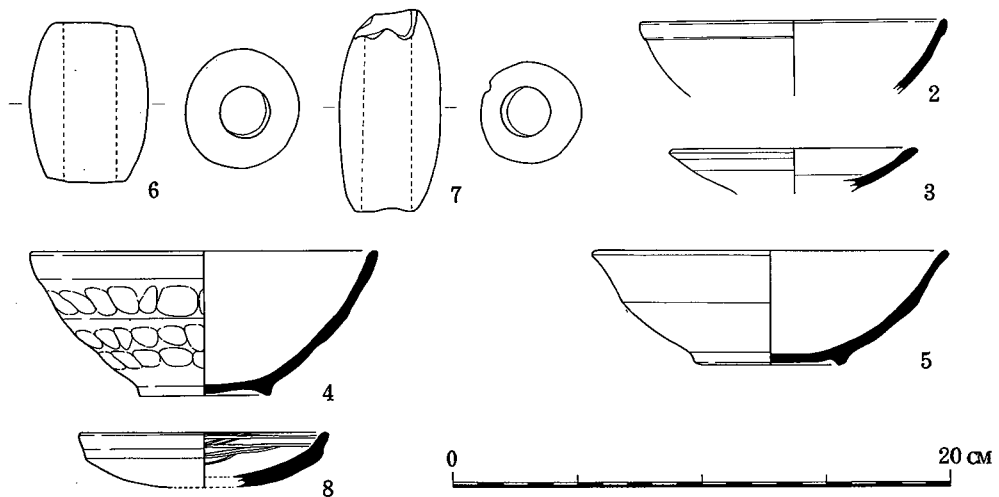
土坑10（第23図、図版32）

土坑10（SK-10）からは多量の礫とともに瓦器小碗（1～6）、土師器皿（7・8）、甕片（9・10）、羽釜片（11）および土師器小皿小片等が出土している。

5. その他の出土遺物（第24図、図版33）

その他、各遺構内からの出土ではないが、遺構検出面上層の床土および淡茶褐色遺物包含土層内よりの出土遺物の主なものとして、瓦器碗、土師器小皿、陶磁器片、土錘等がそれぞれ出土している。

その中で、貨幣（1）1点が出土している。これは中国「新」時代に造られた「貨泉」である。日本では当時、弥生時代中期のものである。国内の弥生時代の遺跡からは現在までに若干の出土量が知られているが、今回の調査で出土している各種遺構遺物の中に弥生時代と明確に示すものはなく、出土した貨泉については弥生時代に当地域に運ばれてきたものとは考えがたく、今回検出した遺構群と同様の時代に移動、搬入されたものと思われる。



第24図 その他の出土遺物実測図（1：3）

第四節 ま と め

今回の調査で検出した各種遺構について、その遺構内よりの出土遺物から時期的考察を行なえるものとしてはSB-1・2・3、SE-1・2・3・5、SD-1・7、SK-5・10等である。

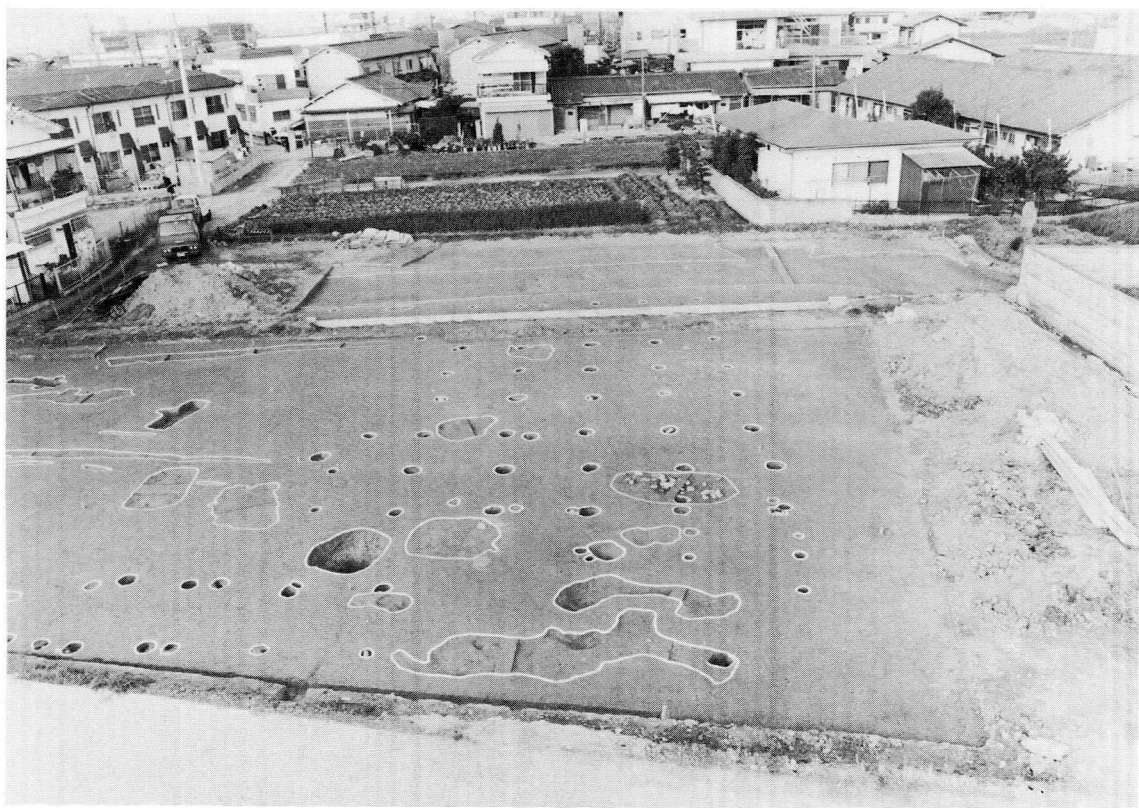
中でも遺構の切り合い関係よりSD-7、SE-2・3が時期的先後関係を有しており、SE-2→SD-7→SE-3と新しくなっている。出土遺物からはSE-2出土の瓦器碗等より13世紀代と考えられ、SD-7、SE-3についてはさほど時期的隔りはないものと考えられ14世紀後半～15世紀初頭に比定できるものと思われる。

出土遺物より、特に瓦器の形態等の変化からではあるが、一時期を構成する遺構群としてはSB-1・2・3、SE-1および若干の時期差はあるかもしれないがSK-5が相接近する12世紀中頃～後半にかけての時期かと考えられ、次にSE-2・5の13世紀代と考えられる遺構である。ただ、SE-5については出土遺物に若干の差異が認められ13世紀後半代以降14世紀前半代にかけての出土遺物が一部包含されているものと思われる。以下、SD-1・7を中心としてSE-3、SK-10をも含めた14世紀後半代以降の遺構群であろう。

今回の調査で確認し得る各遺構群の時期については上記のような流れがあるものと考えられ、12世紀中頃より少なくとも15世紀初頭まで約200年あまり遺構の移り変わりが認められ、人々の生活の場として定着し存続していたと考えられる。

圖

版



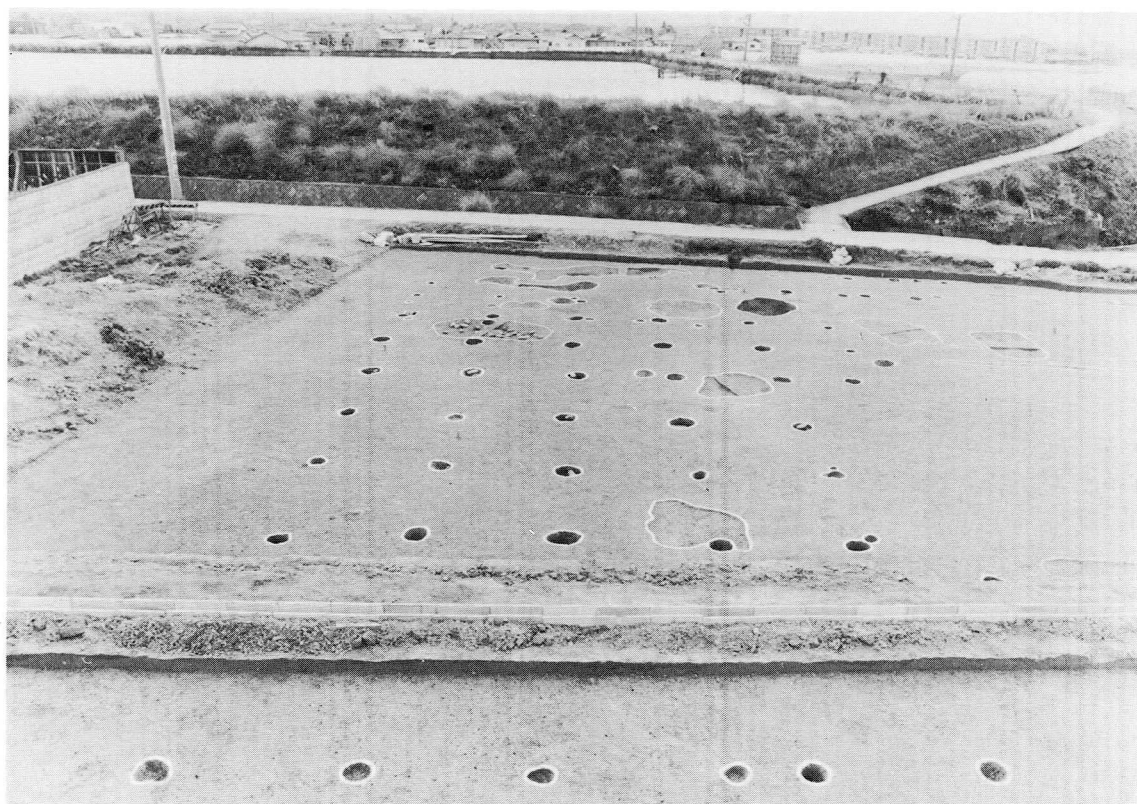
1. A区全景

南西より



2. 同上

南西より



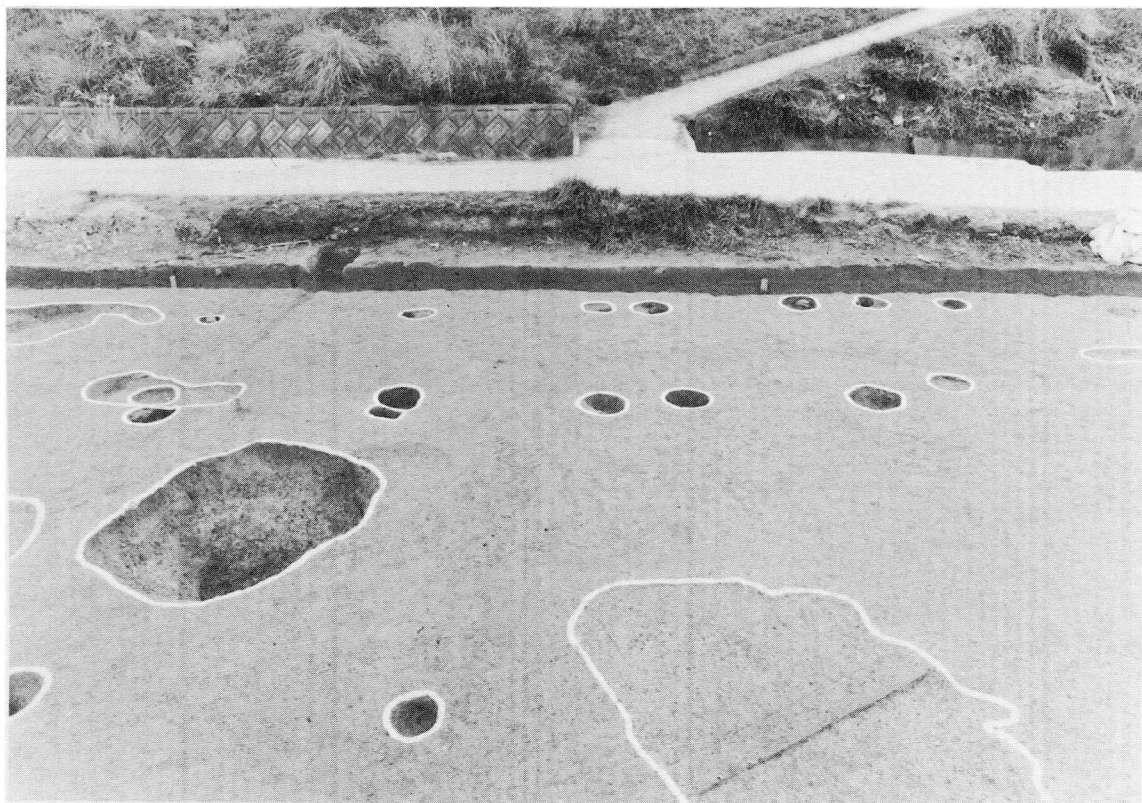
1. A区掘立柱建物1

北東より



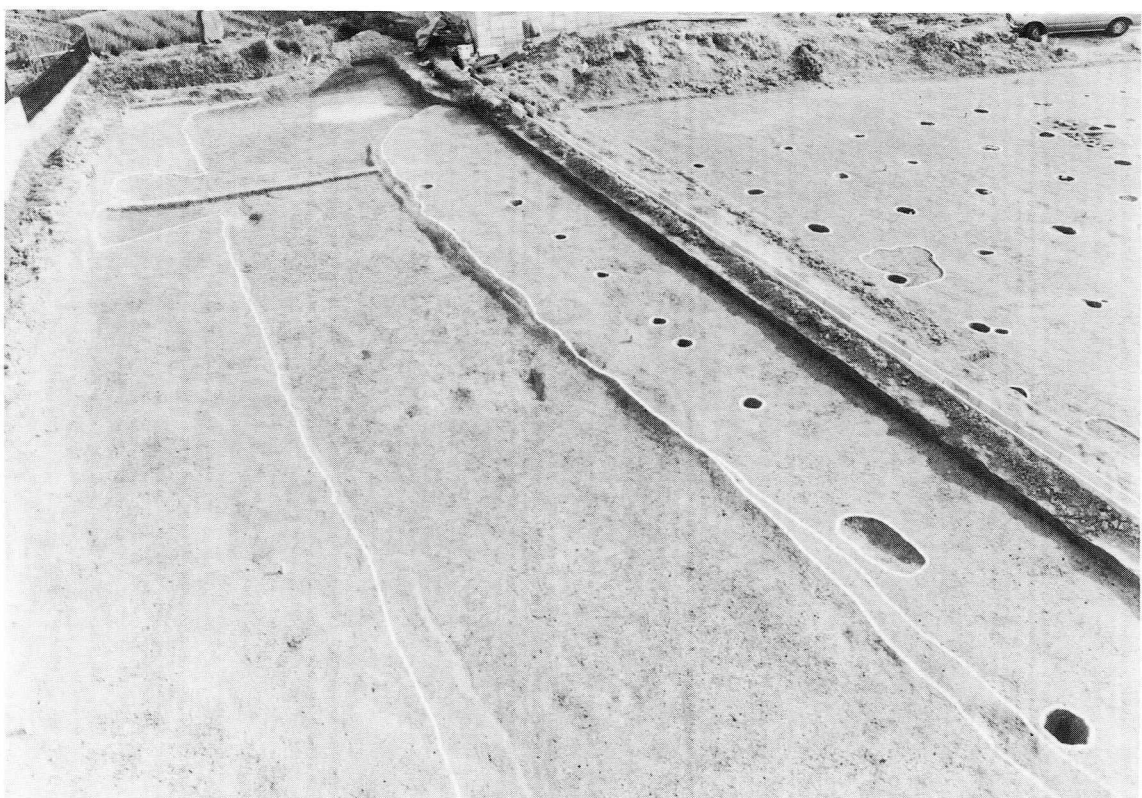
2. 同上

北西より



1. A区掘立柱建物2.3

北東より



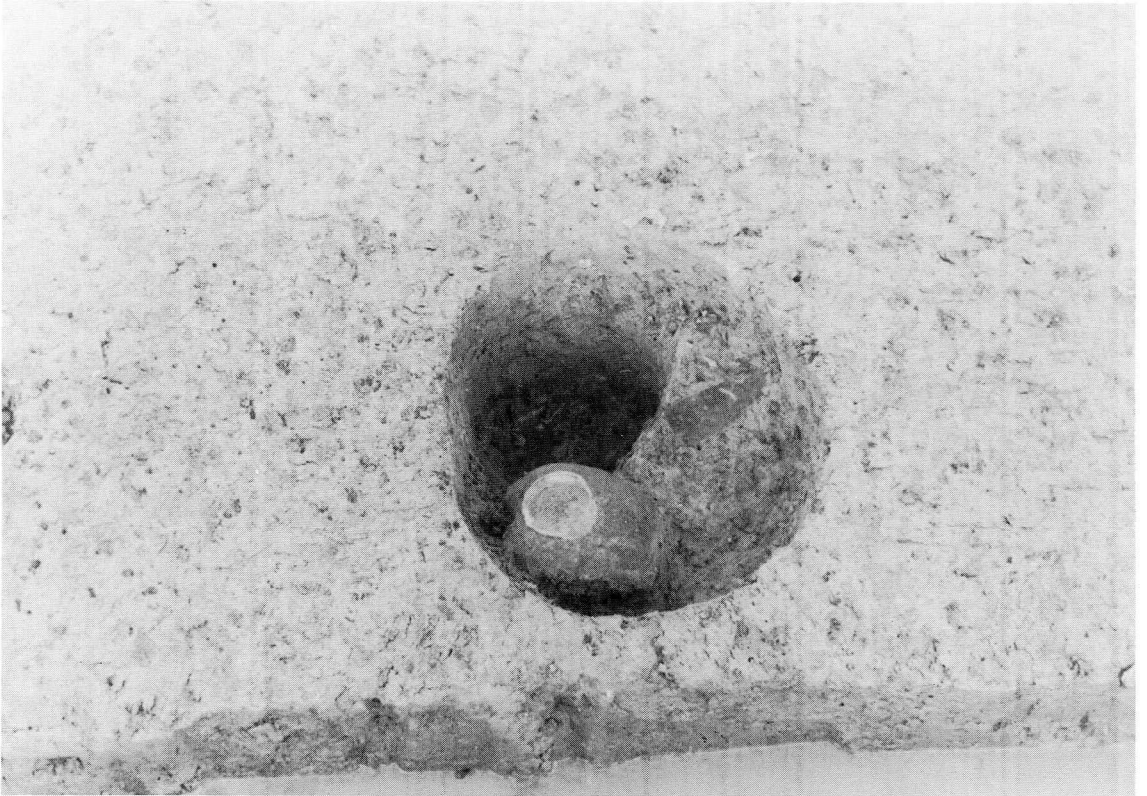
2. A区溝1

北西より



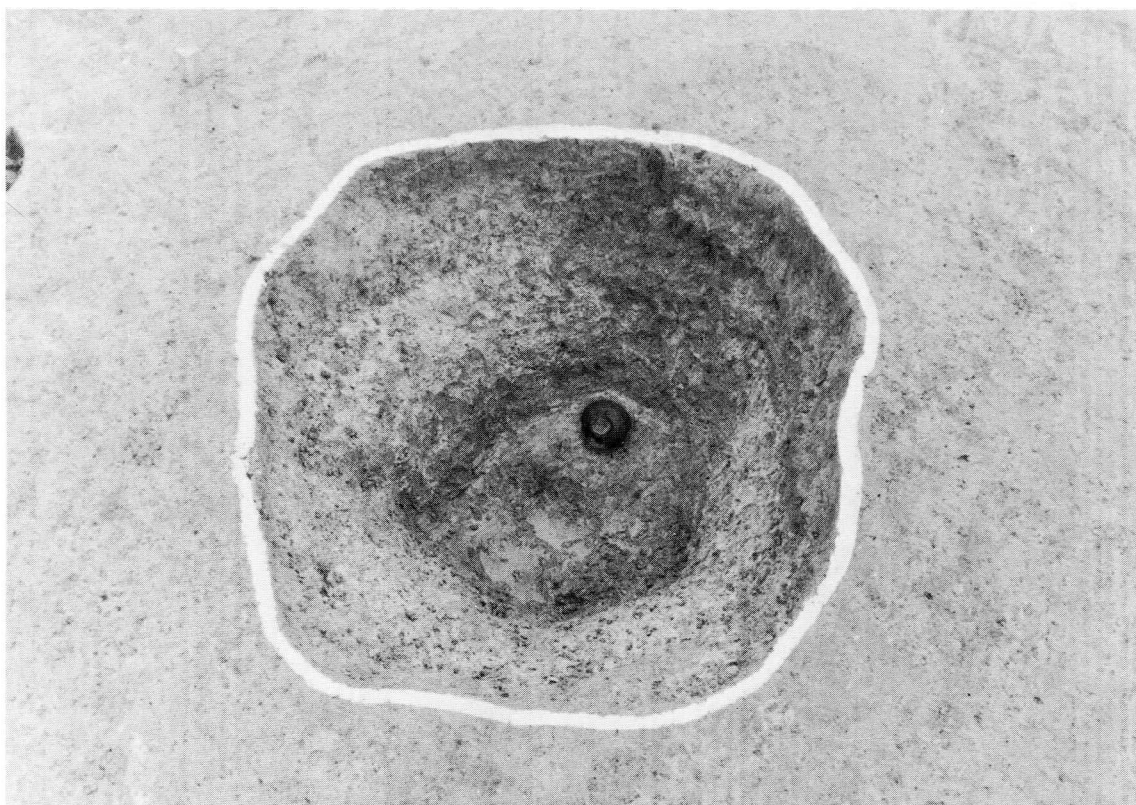
1. 掘立柱建物1.柱穴掘り方内遺物出土状況

北東より



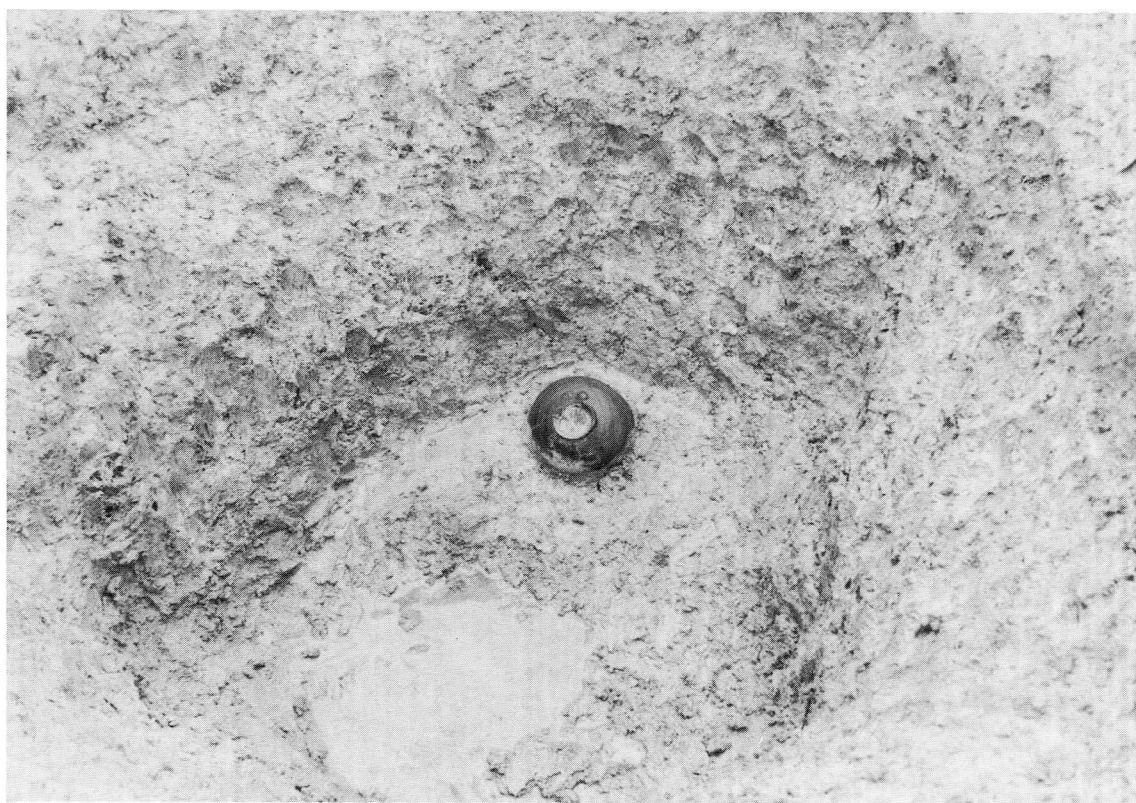
2. A区掘立柱建物3.柱穴掘り方内遺物出土状況

南西より



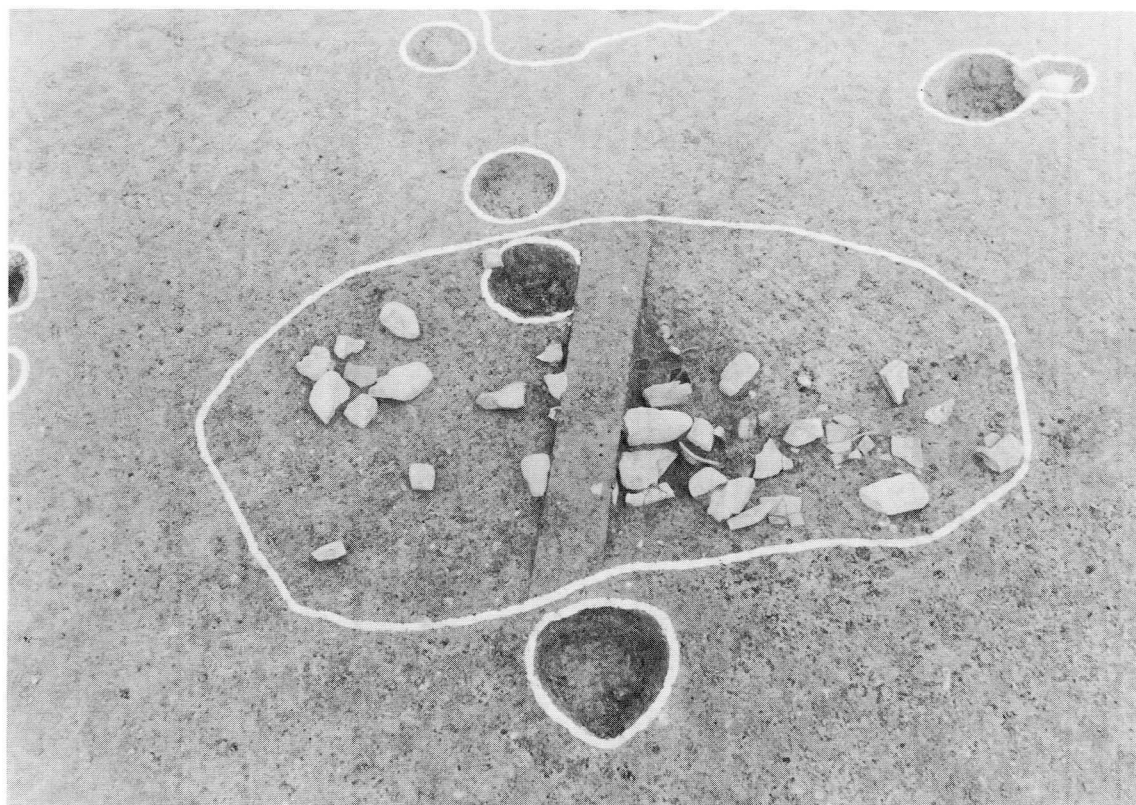
1. A区井戸1

北より



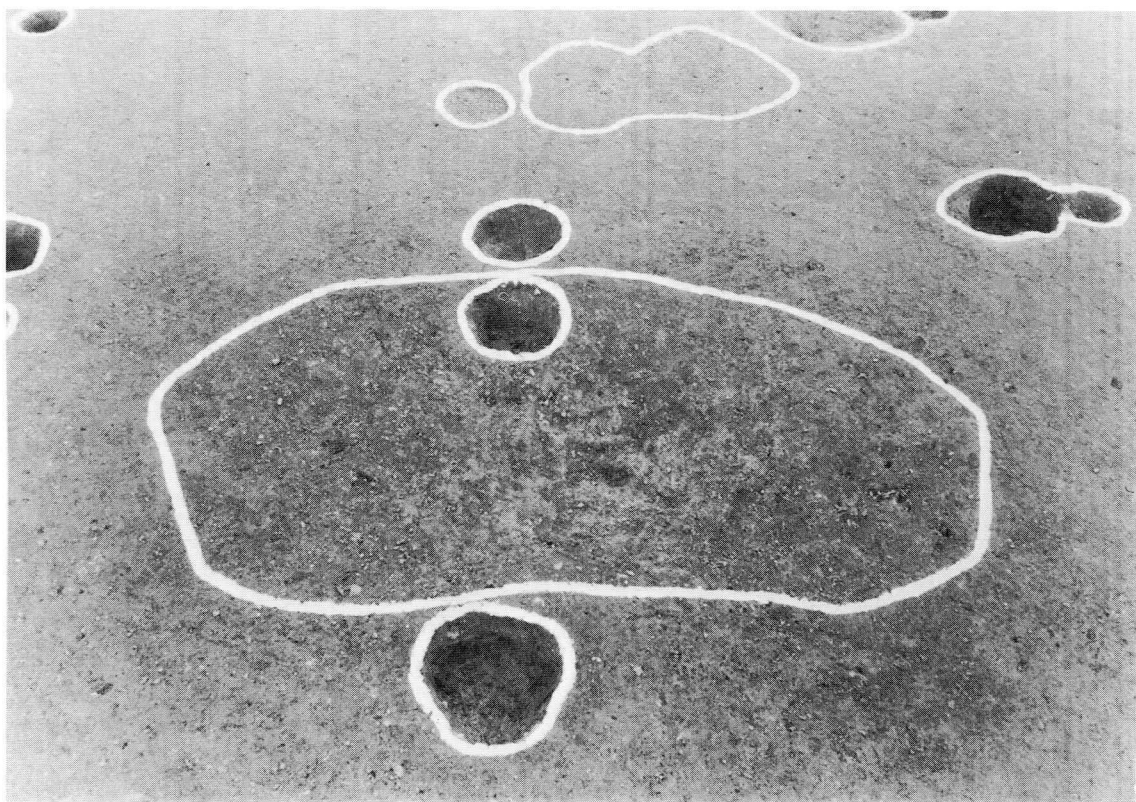
2. 同上部分

北より



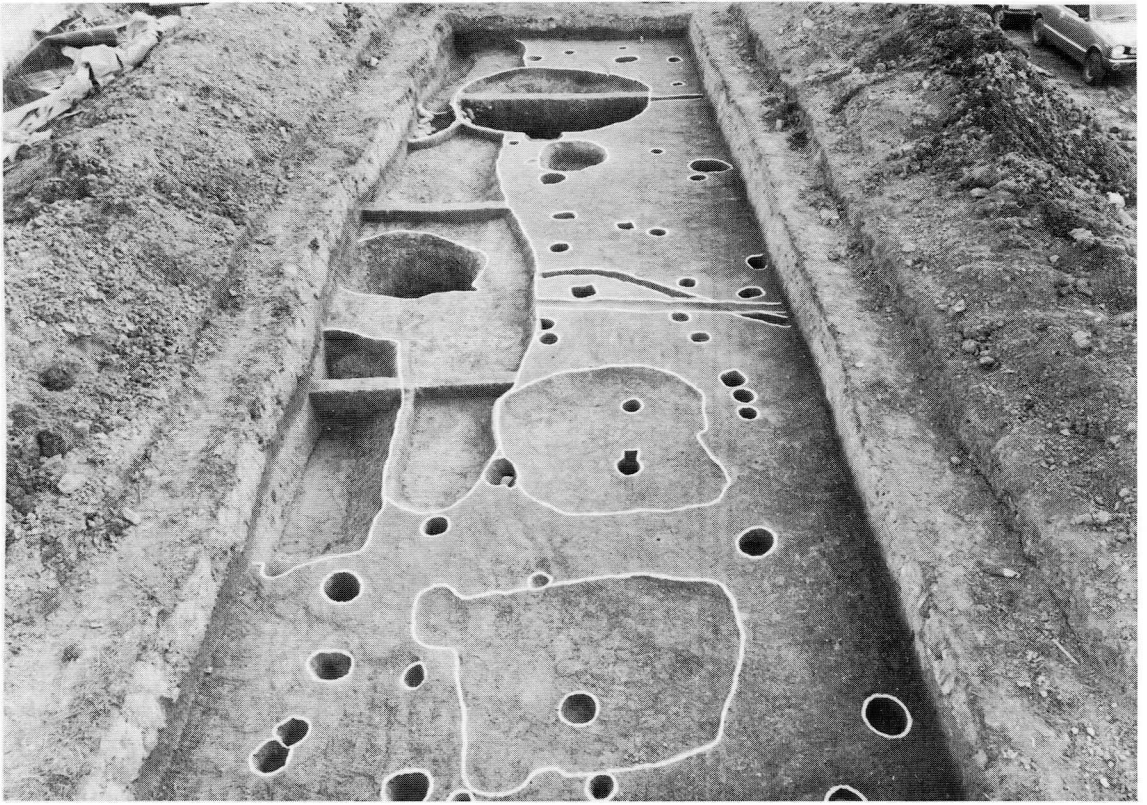
1. A区土塚5 遺物出土状況

北東より



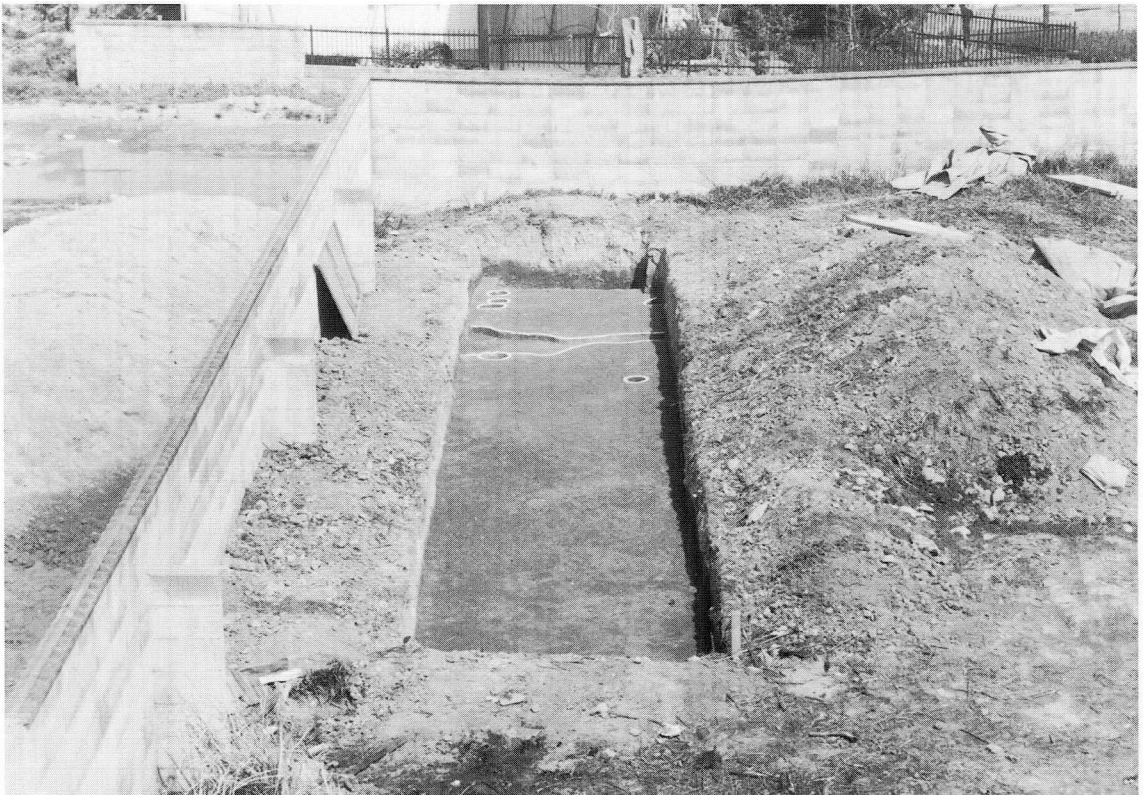
2. 同上 完掘状況

北東より



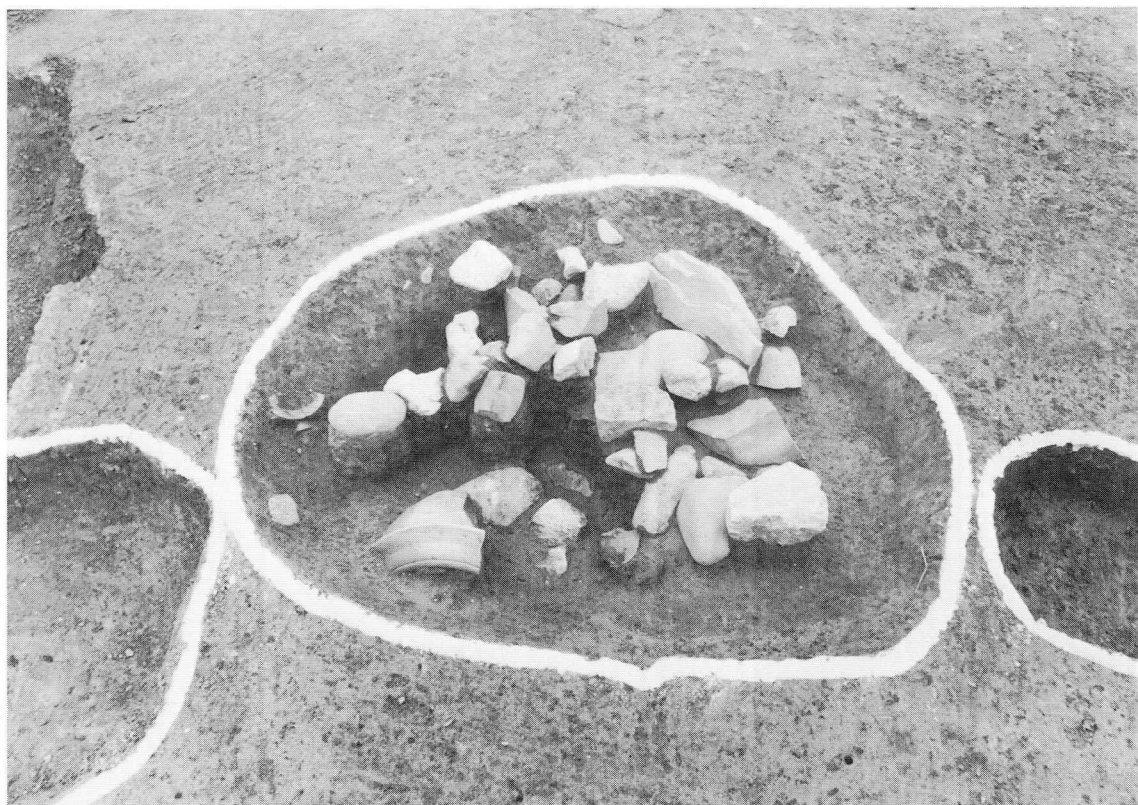
1. C区全景

北東より



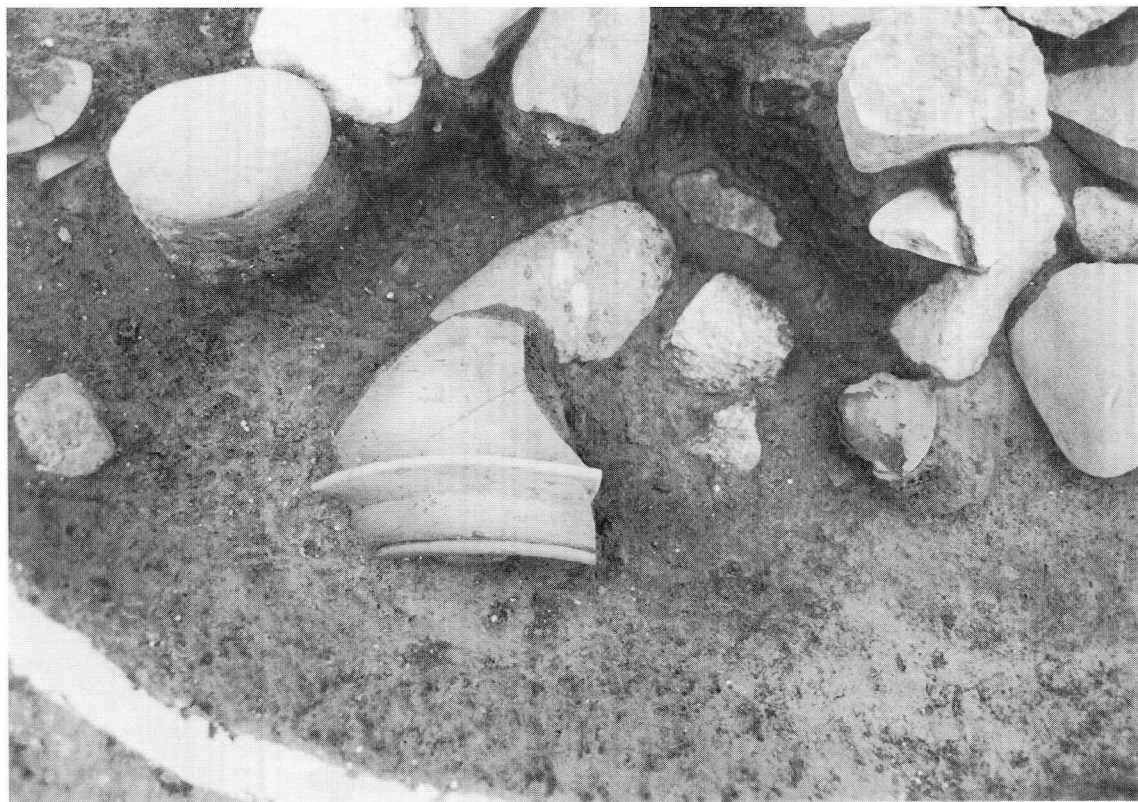
2. B区全景

南西より



1. C区土塚10遺物出土状況

南東より



2. 同上部分

南東より



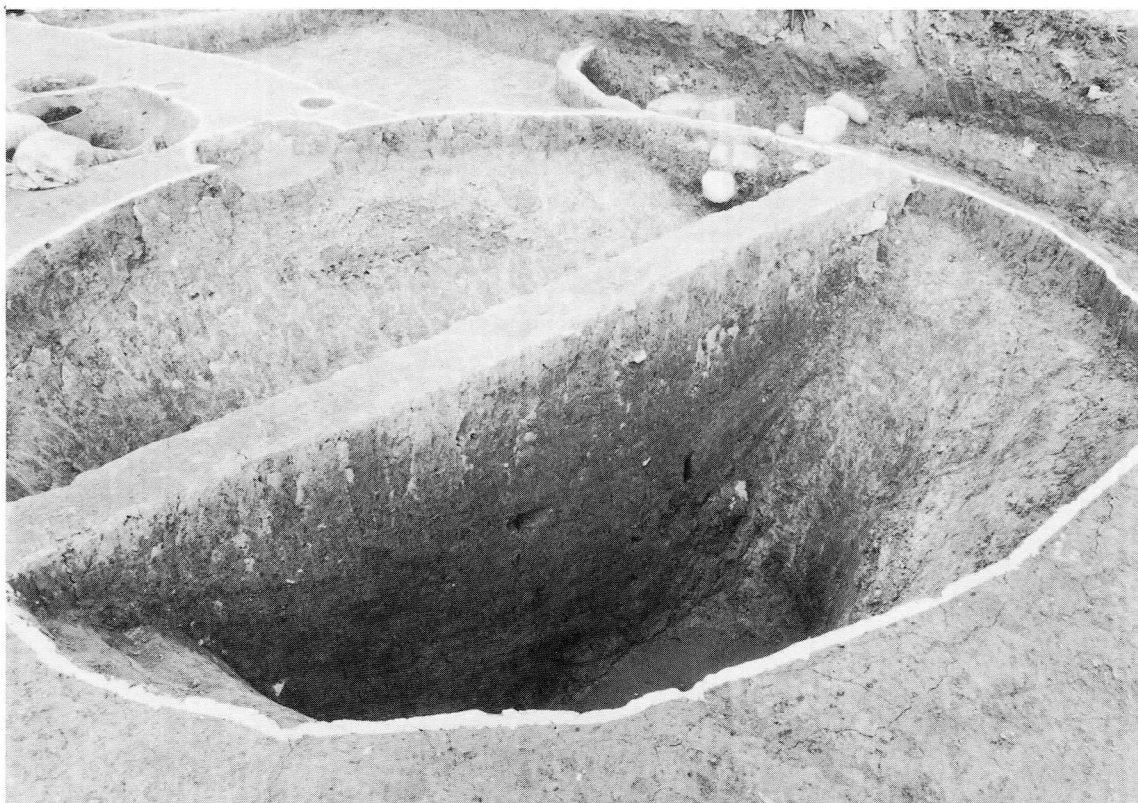
1. C区溝7上面遺物出土状況

北西より



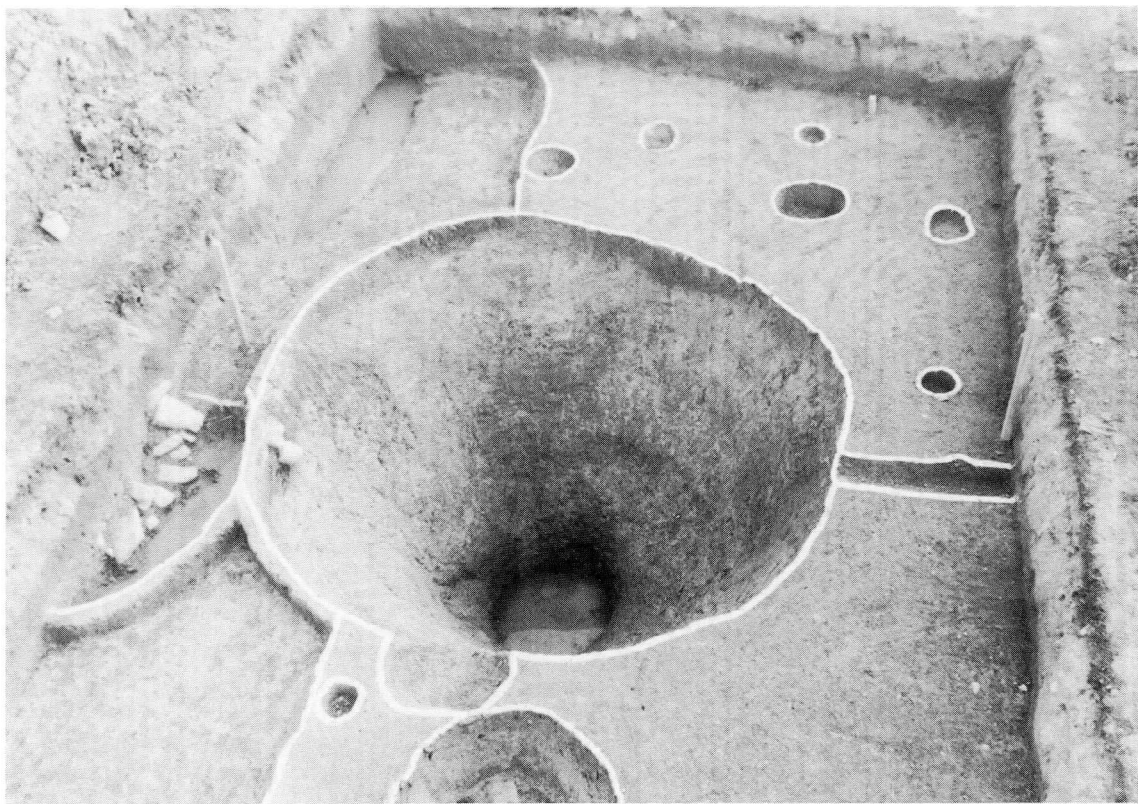
2. C区井戸2

北西より



1. C区井戸3. 内土層断面

西より



1. 同上 完掘状況

北東より



1. D区全景

西より



2. 同上

南より



1. D区ピット群

南西より



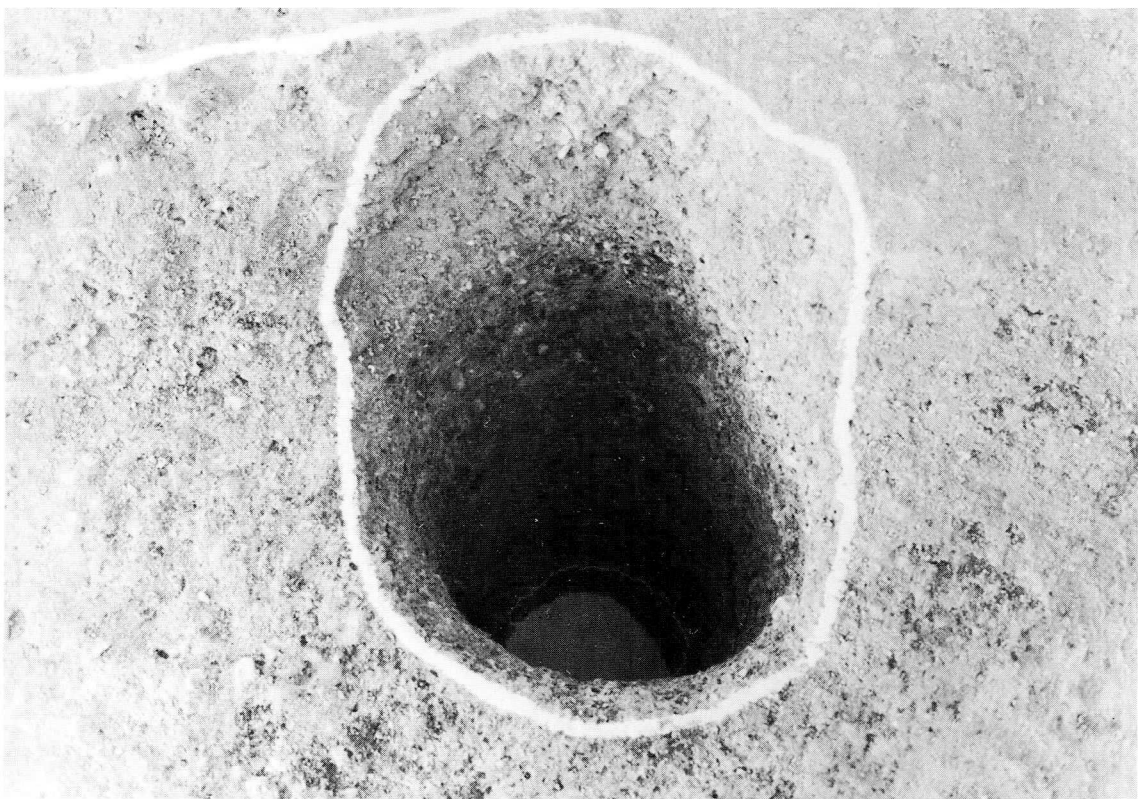
2. D区井戸4

南より



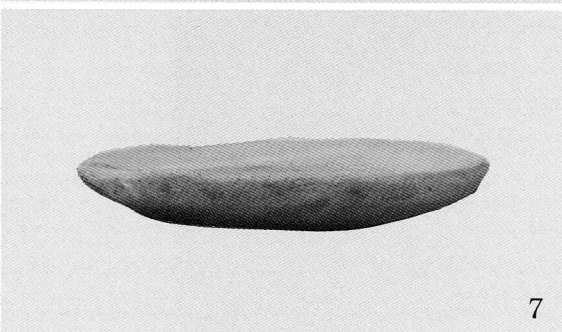
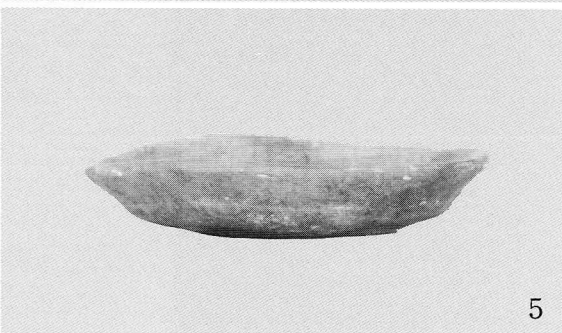
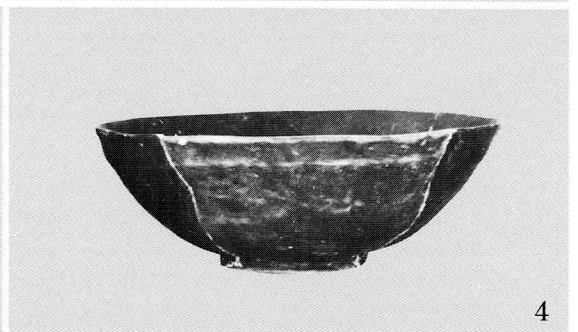
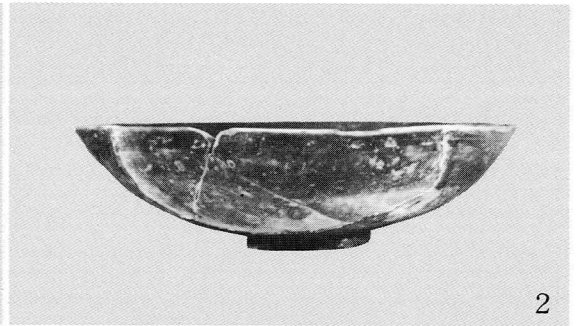
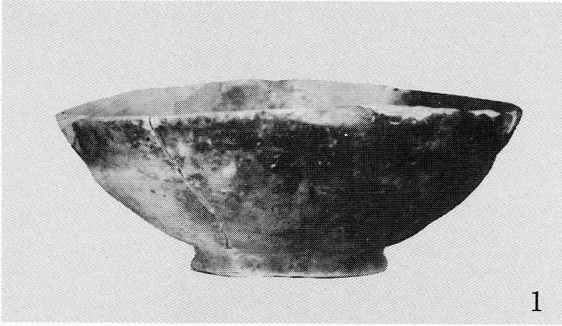
1. D区井戸5

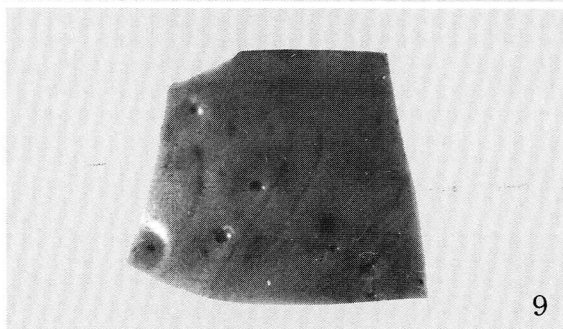
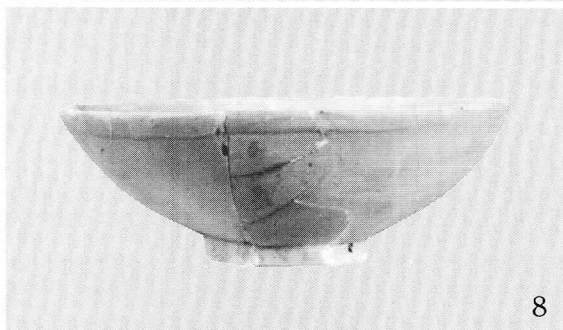
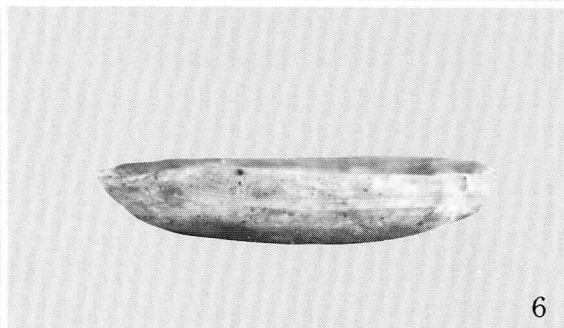
南西より

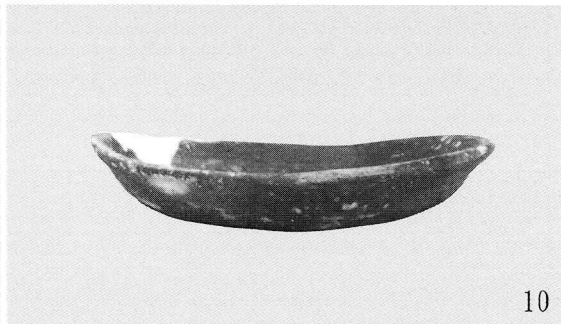
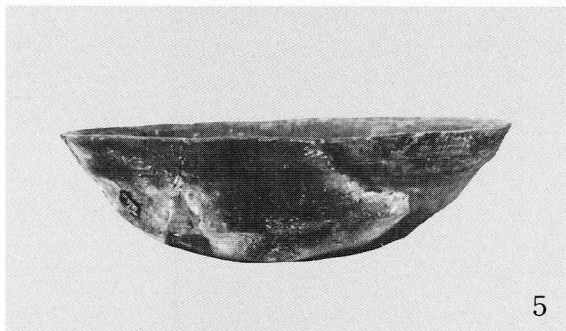
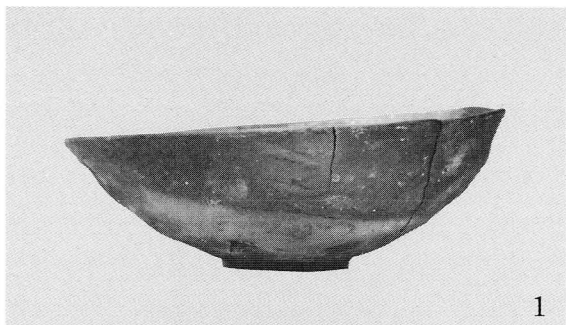


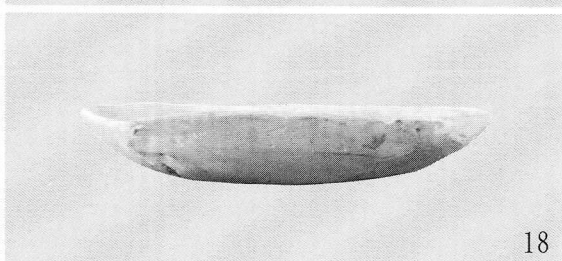
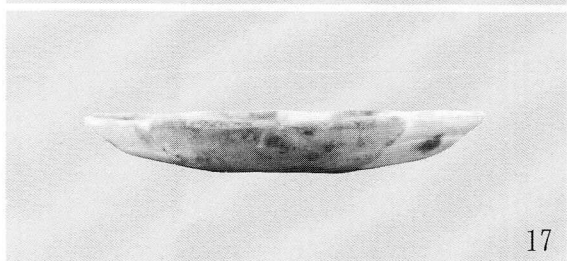
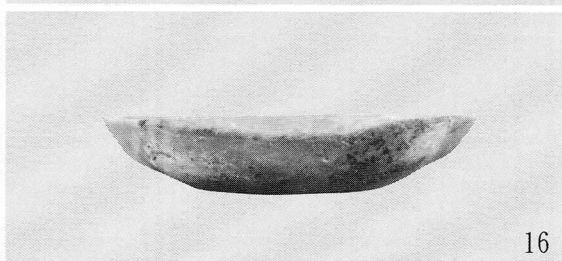
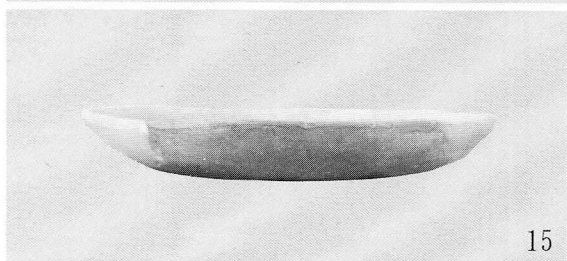
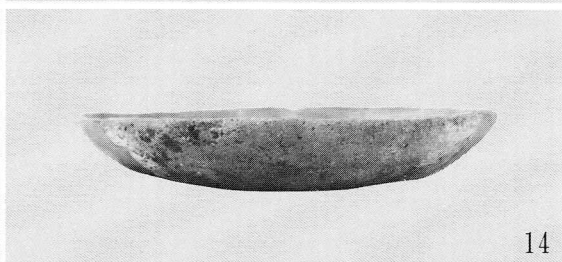
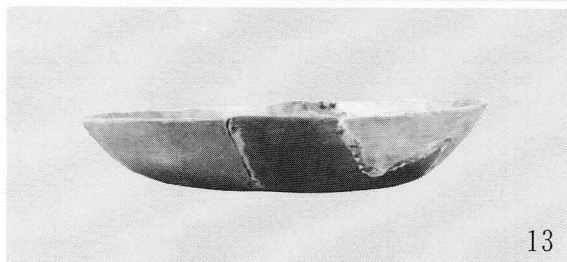
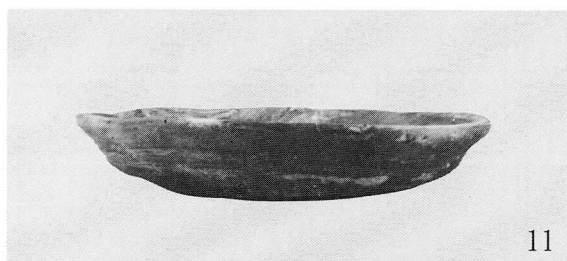
2. 同上

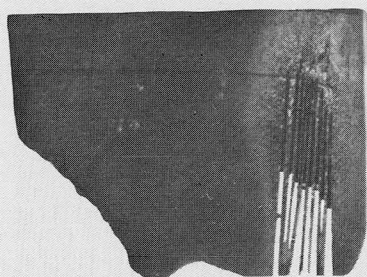
南西より



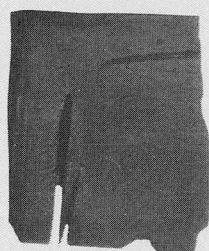








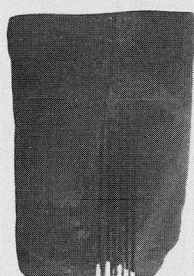
21



22



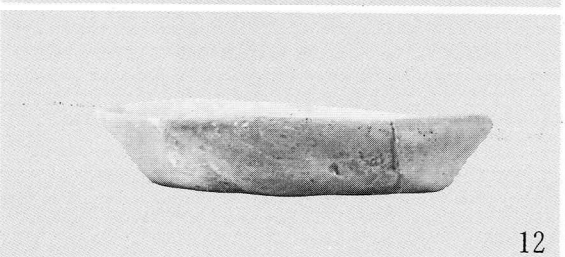
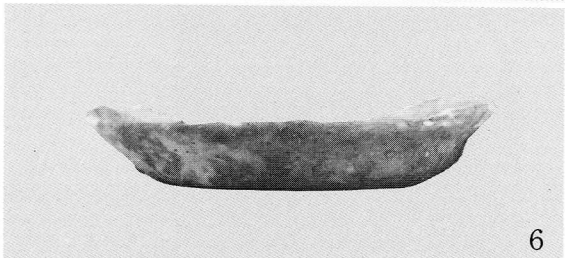
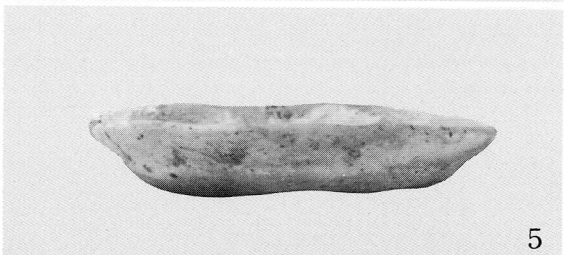
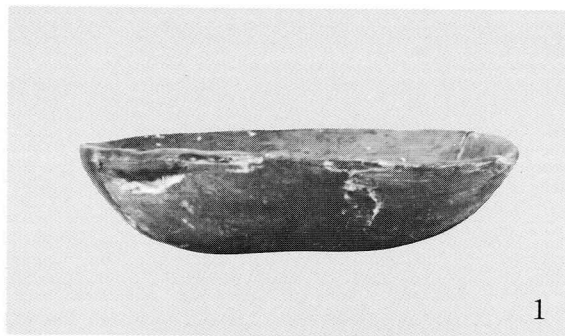
23

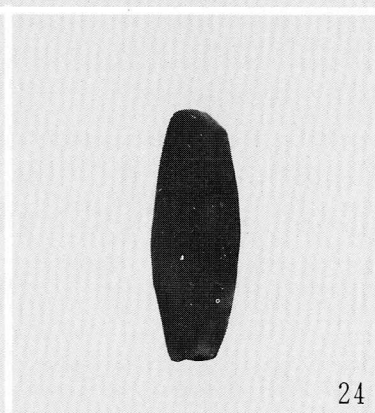
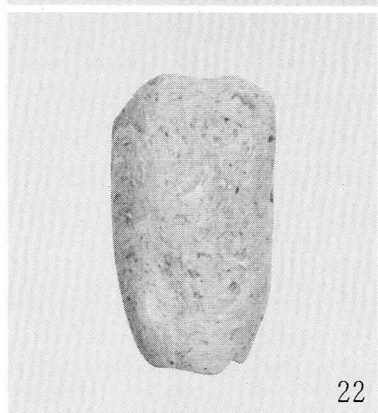
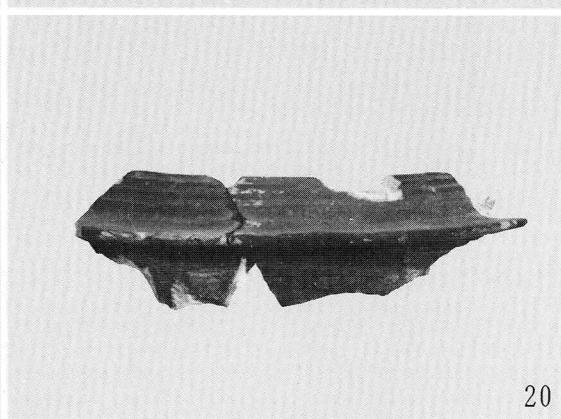
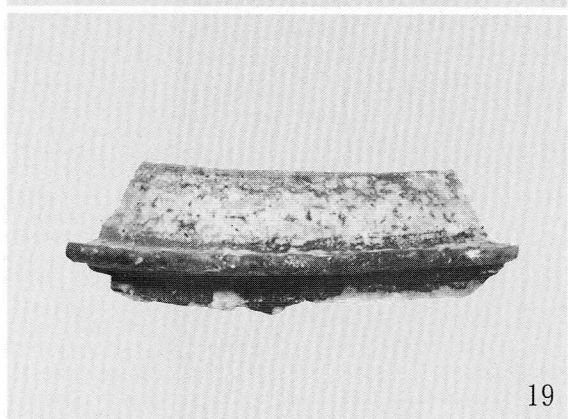
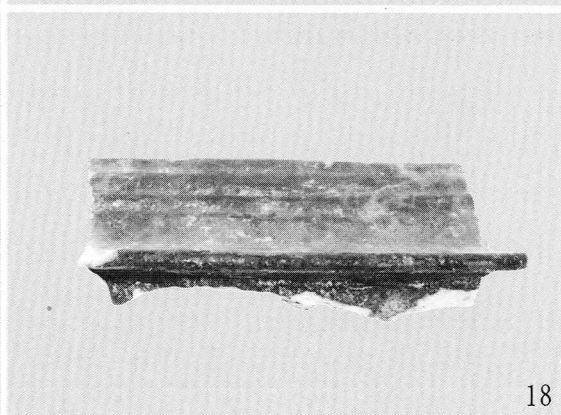
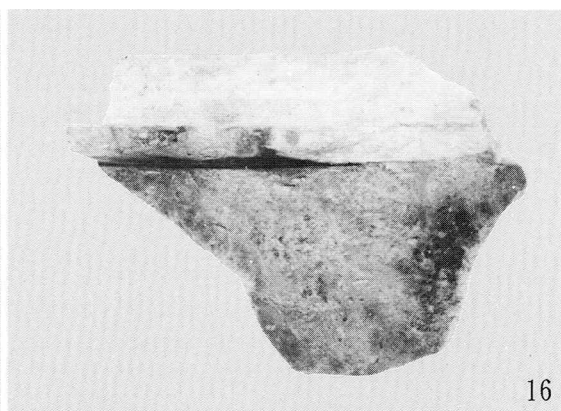


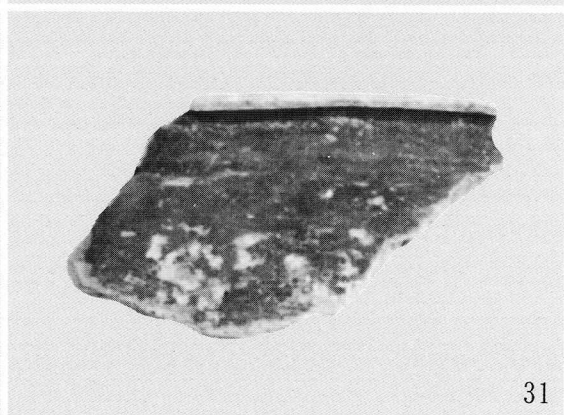
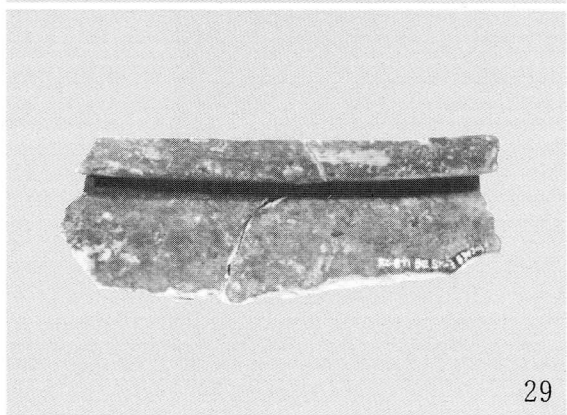
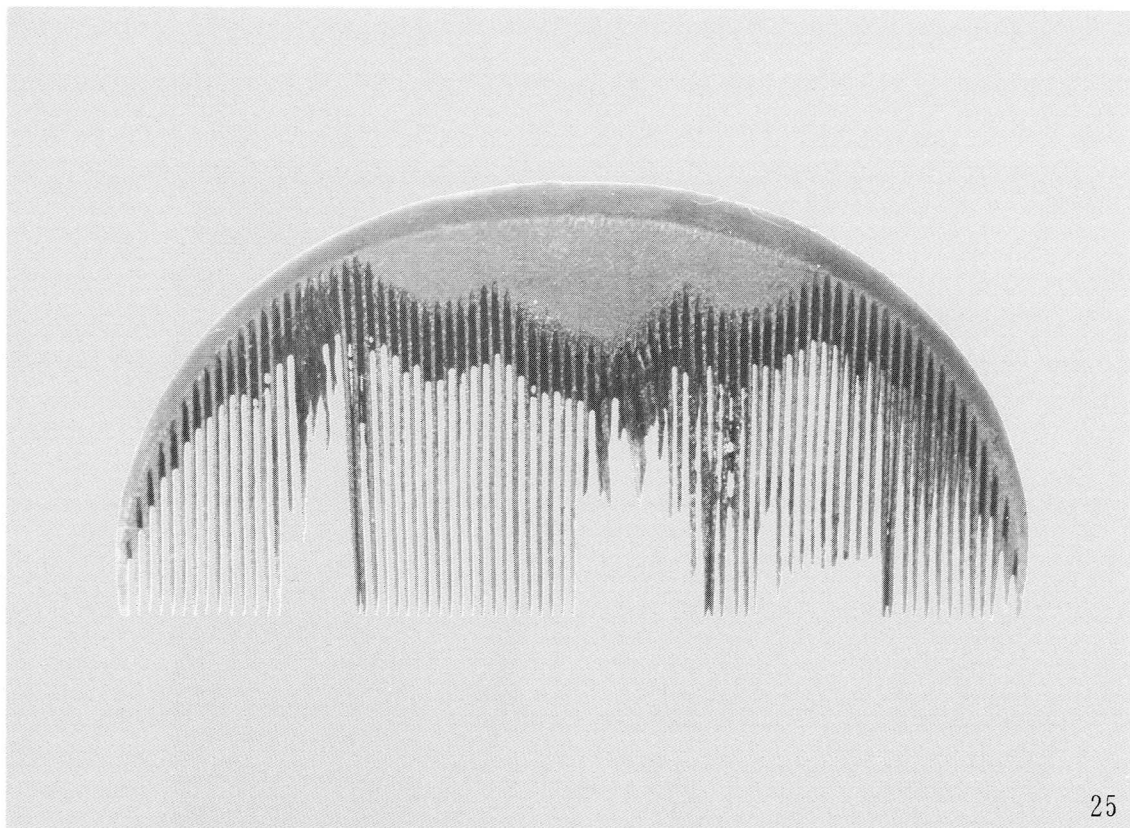
24

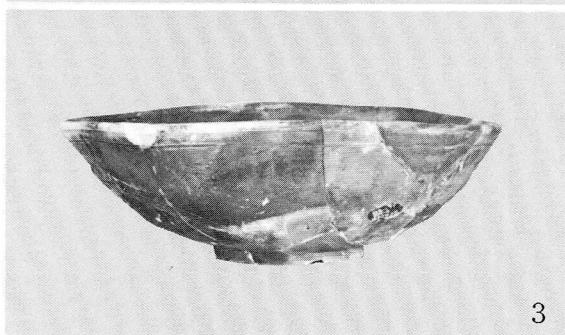
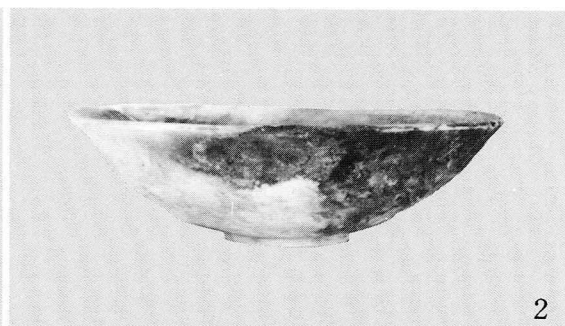
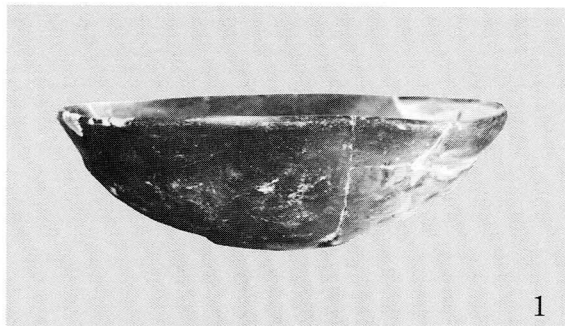


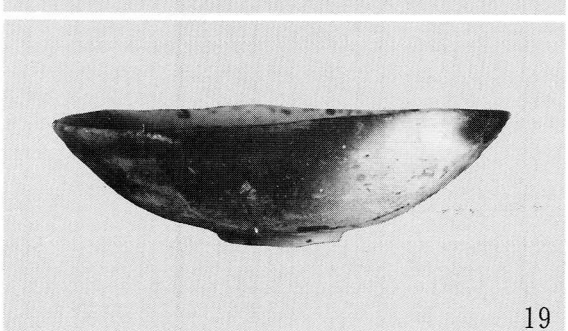
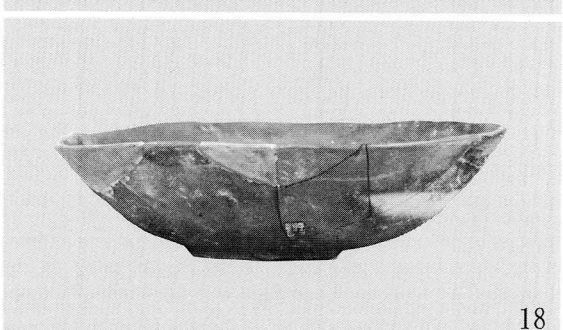
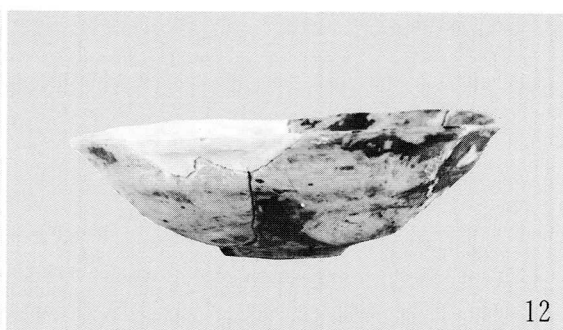
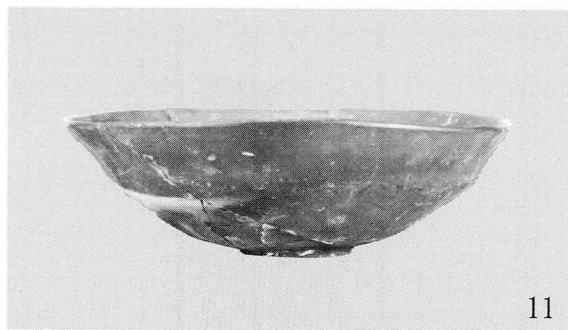
20

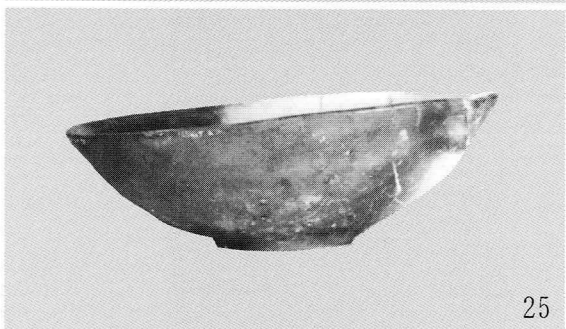
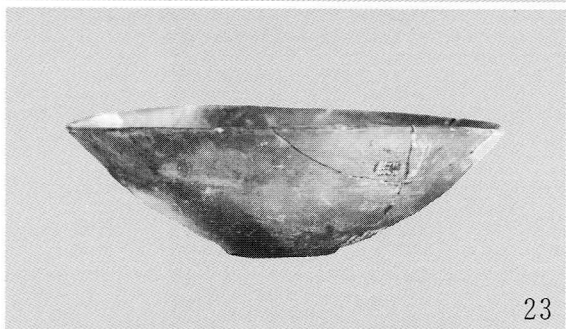
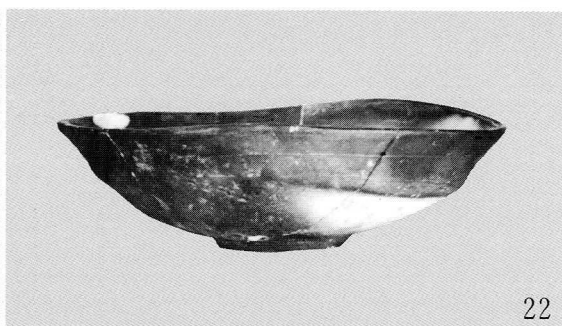


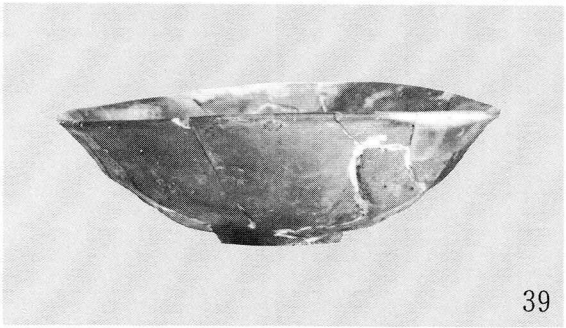
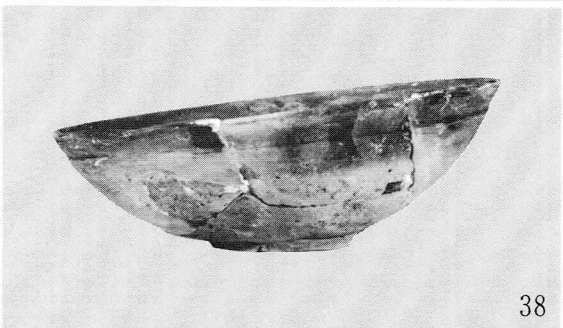
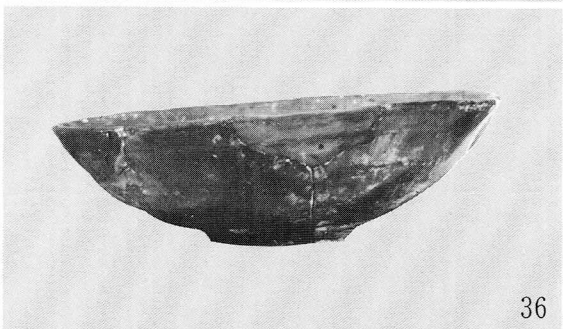
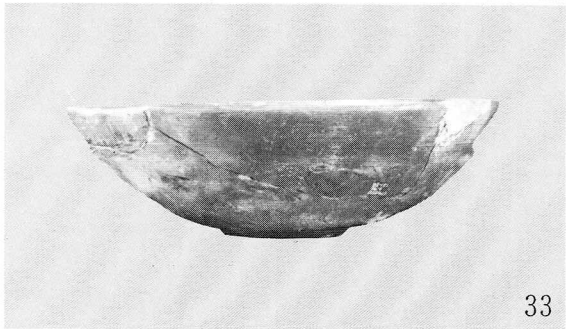


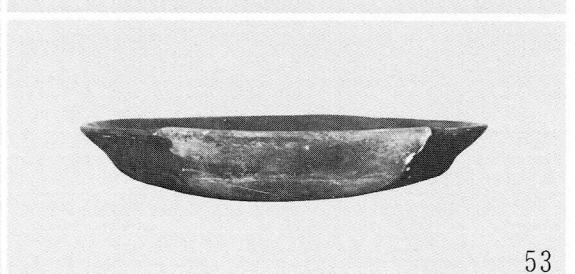
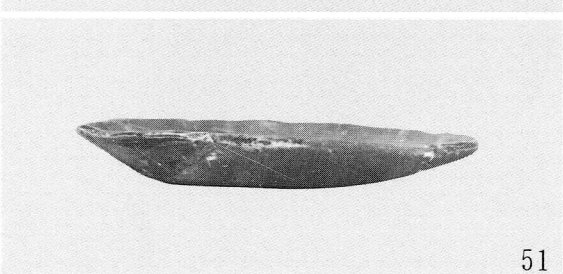
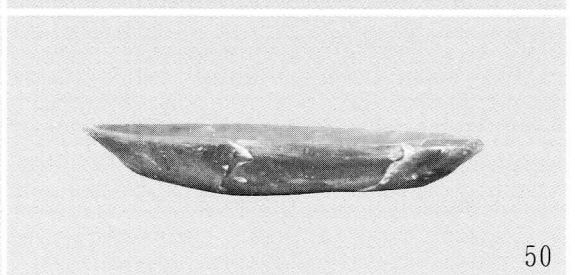
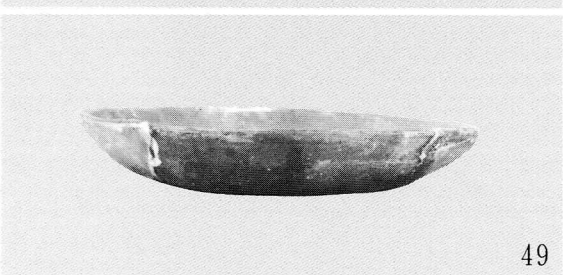
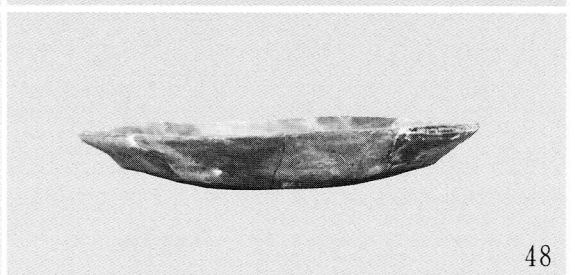
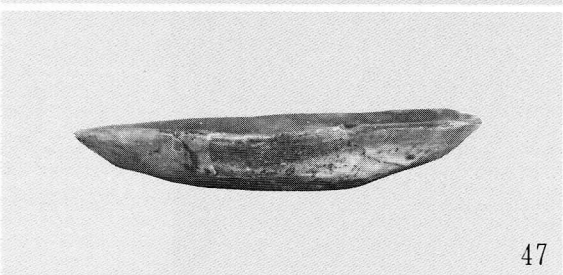
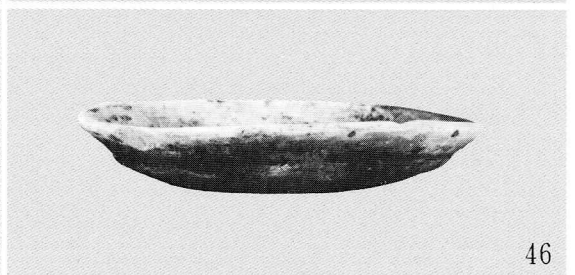
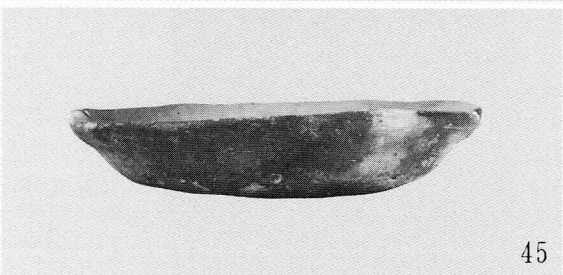
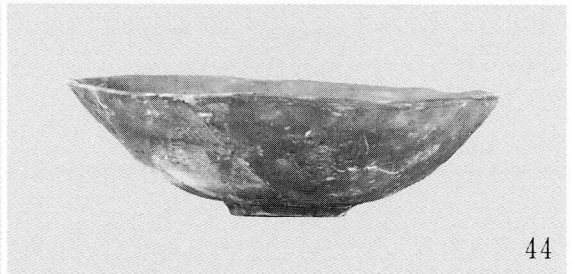
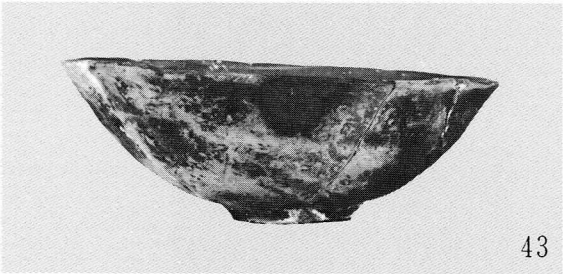
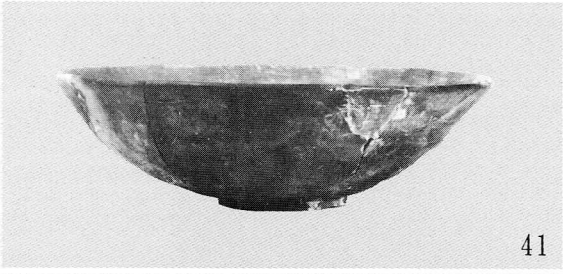


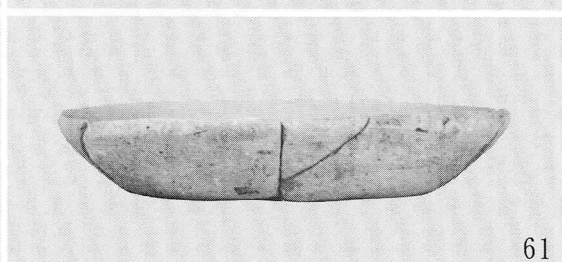
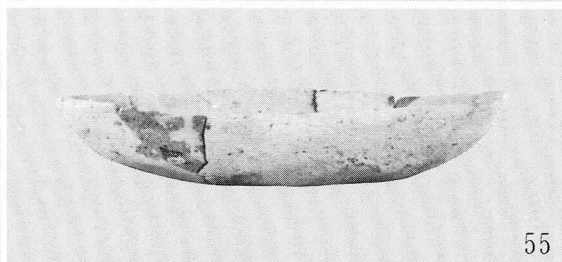
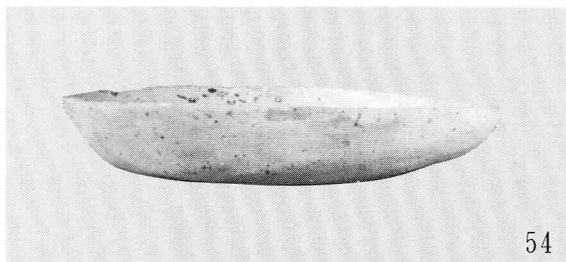
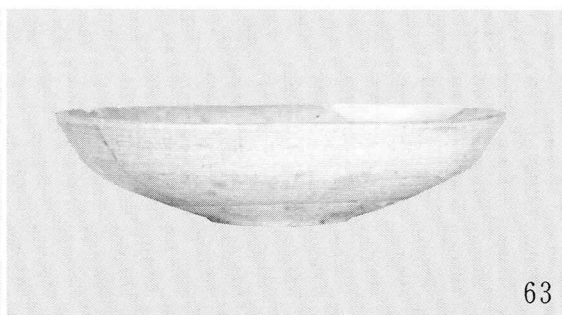


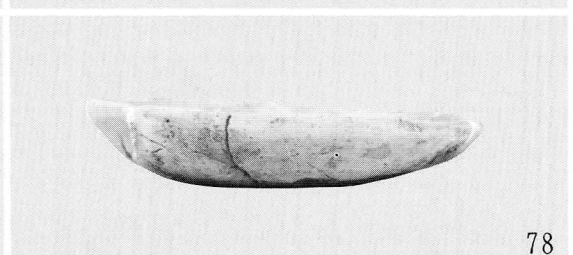
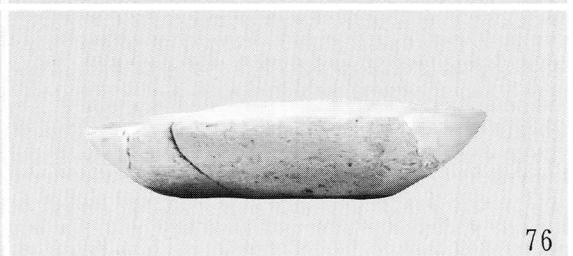
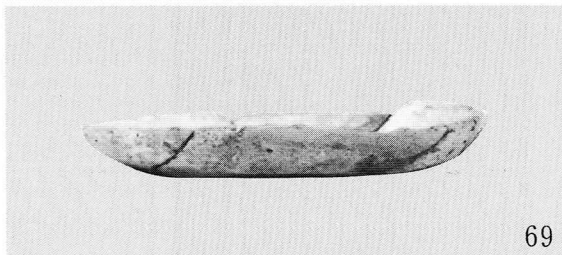
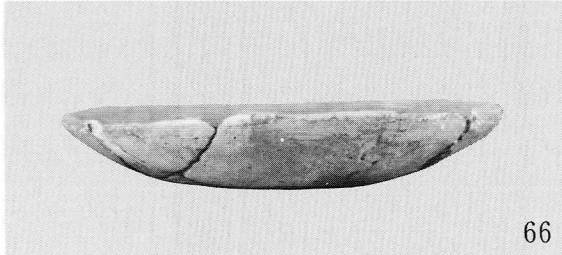
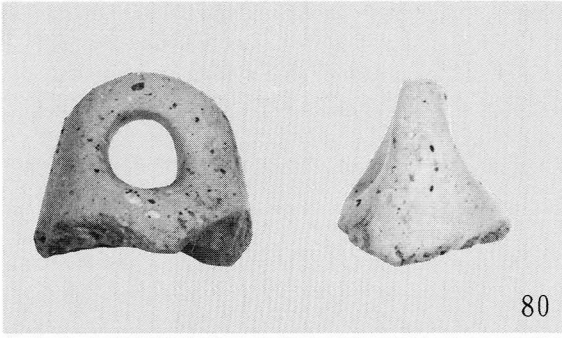


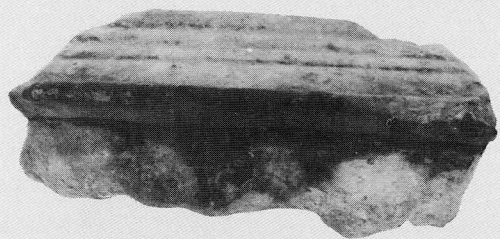




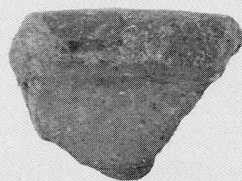








1



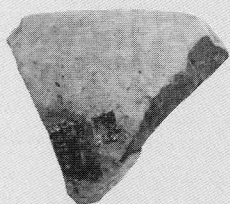
2



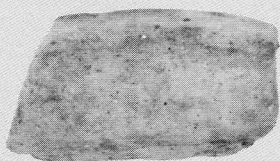
3



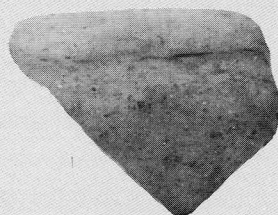
4



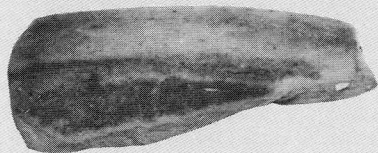
5



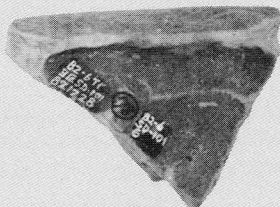
6



7



8



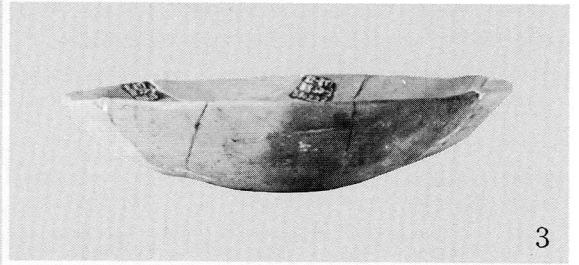
9



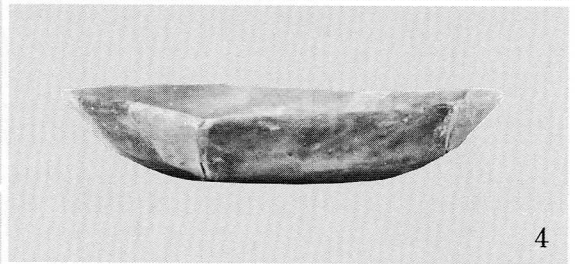
1



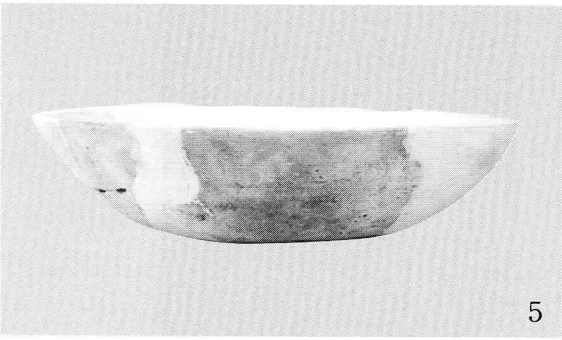
2



3



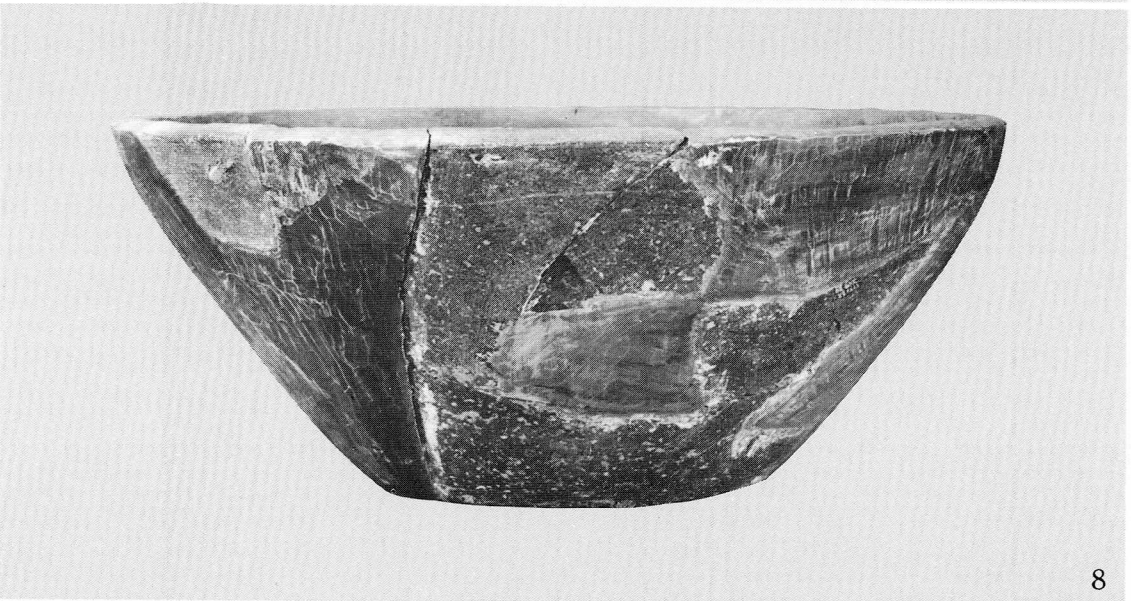
4



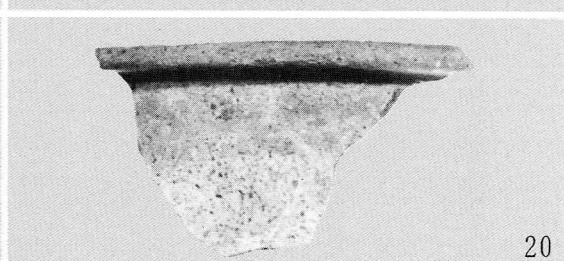
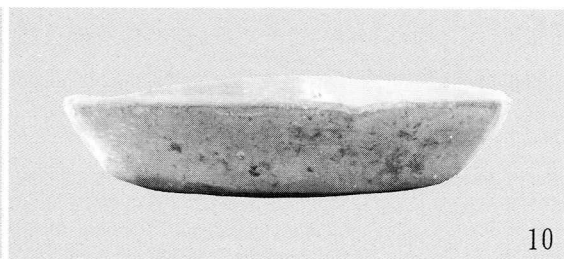
5

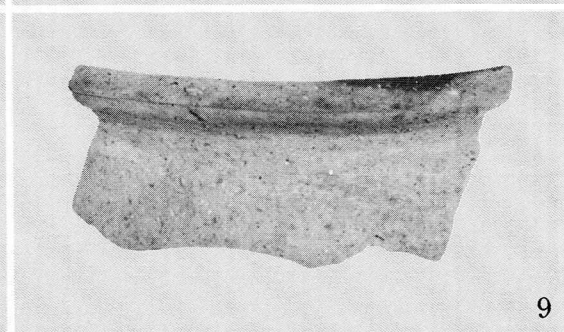
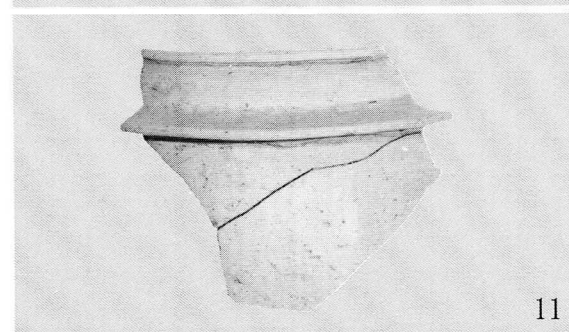
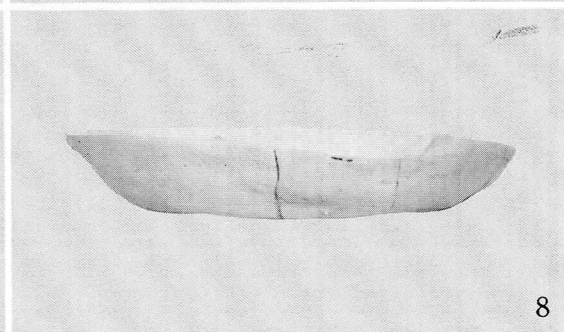
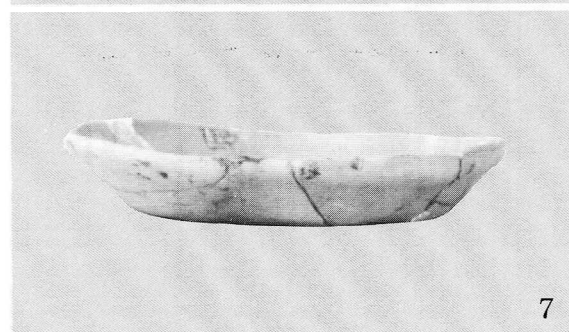
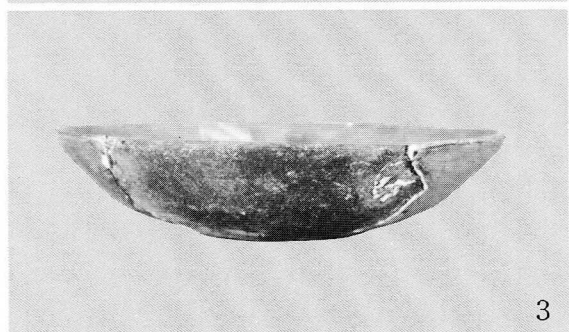
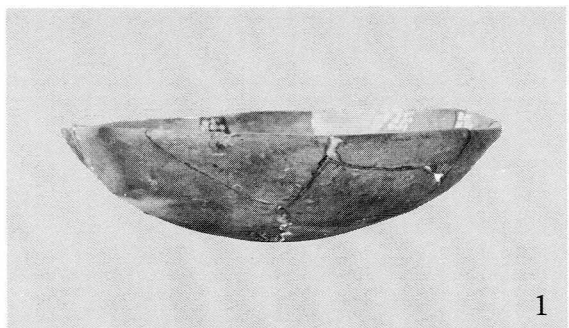


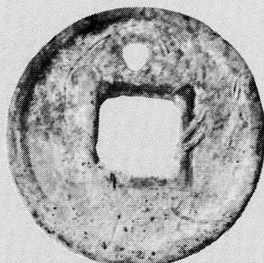
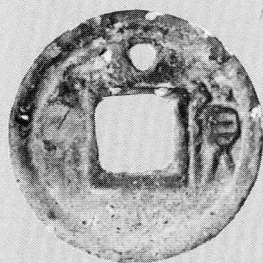
6



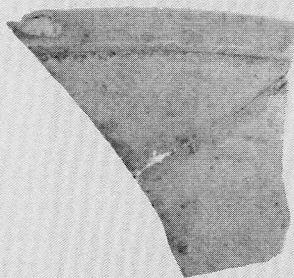
8



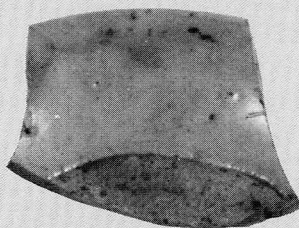




1



2



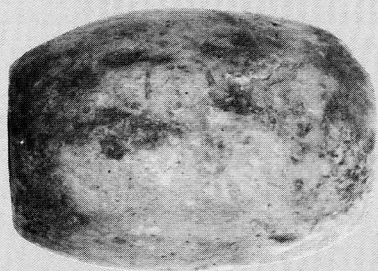
3



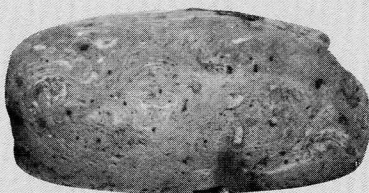
4



5



6



7